

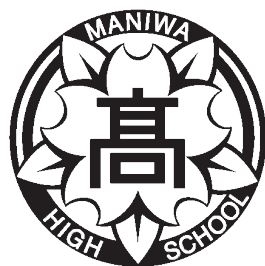
令和4年度

マイスター・ハイスクール事業

研究実施報告書【2年次】

自然・社会・人との対話で育む真庭型産業人材育成構想

-「環境(SDGs)」×「アグリビジネス」⇒豊かな生き方・働き方-



岡山県立真庭高等学校

MANIWA HIGH SCHOOL

研究実施報告書目次

はじめに	1
ビジュアル資料	2
1 令和4年度実施計画	3
2 実施目標	6
3 地域の概要	9
4 令和4年度実施概要	10
5 CEO・産業実務家教員の動き	50
6 地域との協働体制	52
7 委員会等実施報告	54
8 令和4年度地域との連携に関するアンケートの結果と分析	63
9 令和4年度の課題と次年度へ向けて	65
10 終わりに	66

はじめに

岡山県立真庭高等学校

校長 豊田 涼

本校は、大正 13 年に創設された落合町他四箇村組合立落合実科高等女学校を源流に持つ落合高校と、昭和 21 年に創設された久世農林学院を源流に持つ久世高校とが、平成 23 年度に再編整備されてできた学校で、落合校地・久世校地を持つ 2 校地制で、農業・看護・普通科の 3 つの柱で教育活動を行ってきました。近年は、総合的な探究の時間「真庭トライ&レポート」、「おかやま創生パワーアップ事業」等、様々な場面で地域の皆様の御協力をいただきながら、真庭地域をフィールドとする教育活動に力を注いできました。

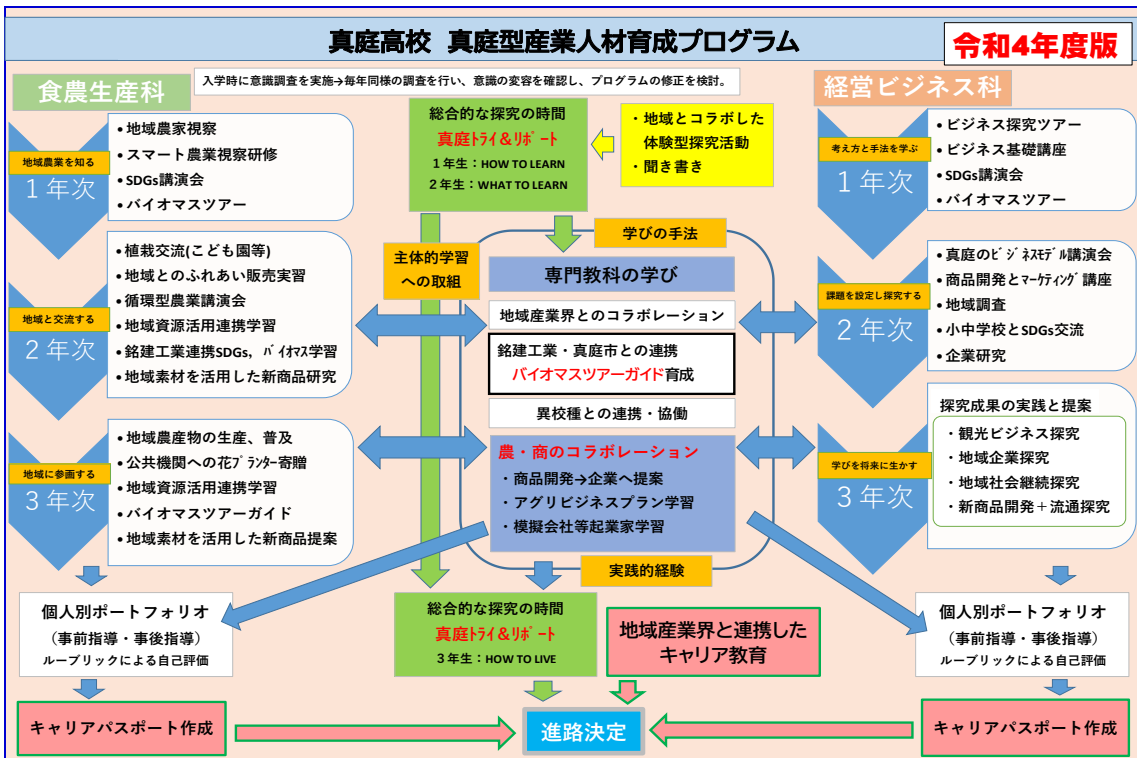
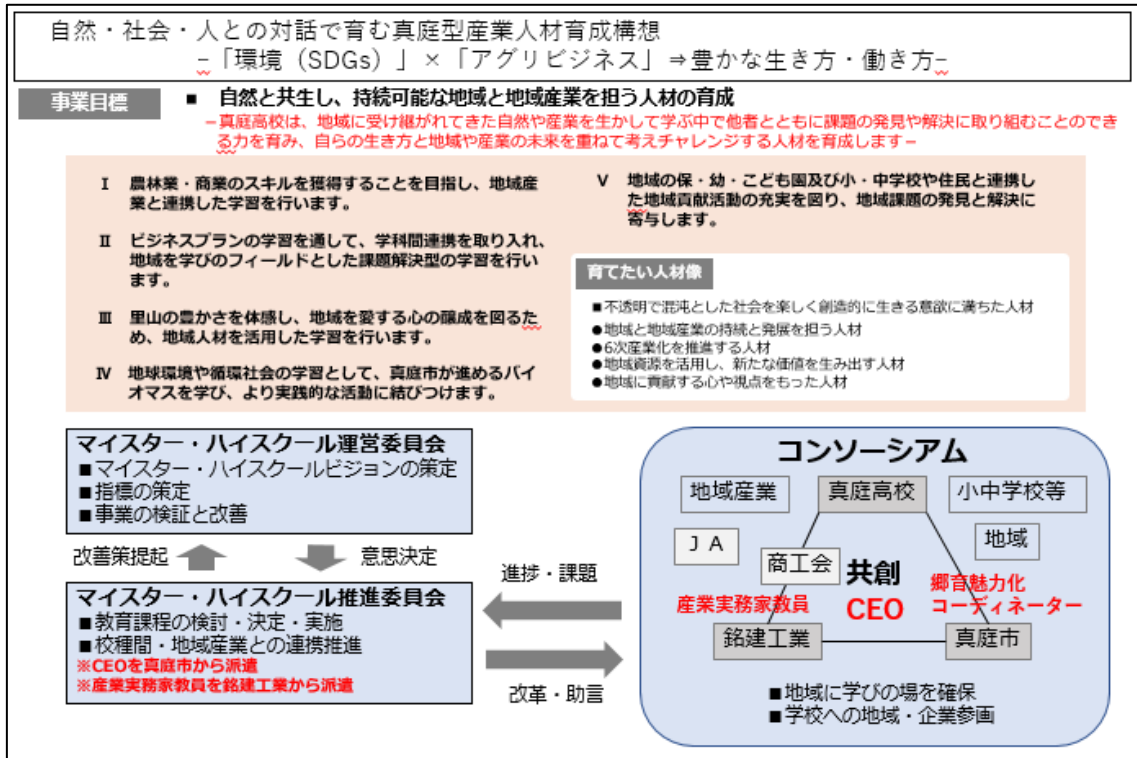
令和 2 年度には「令和 10 年度を目途とする岡山県立高等学校教育体制整備実施計画」により 2 つの校地を落合校地へ統合することとなり、併せて、令和 4 年度に落合校地の普通科と久世校地の生物生産科・食品科学科の募集を停止し、落合校地への食農生産科・経営ビジネス科を新設することが決定しました。

時期を同じくして、令和 3 年度より文部科学省の「マイスター・ハイスクール事業」の指定を受け、『自然・社会・人との対話で育む真庭型産業人材育成構想－「環境 (SDGs)」×「アグリビジネス」⇒豊かな生き方・働き方－』という事業名での取組がスタートしました。

本事業では、真庭市の農産物を生産・加工・販売する 6 次産業化への学習を農商連携により展開するとともに、地域の農林業資源を活用した農業体験や観光プランの提案等を行うアグリビジネスプランの作成に取り組むことや、地域関連企業と連携し、新商品の開発・提案を行うとともに、模擬会社スタイルの学習展開の中で起業家教育を推進することを主な目標としています。この目標を実現するために、真庭市を中心に、銘建工業株式会社をはじめとする多くの企業や団体の皆様の協力を得て、新しい学習プログラムの開発等を行っています。また、真庭市からマイスター・ハイスクール CEO、銘建工業株式会社から産業実務家教員の計 2 名をお迎えし、地域の様々な資源を活用するシステムの構築および最先端の技術・知識等の指導を担っていただいています。これまで以上に地域や産業界との連携を密にし、幅広い知識と行動力を持った若者の育成に取り組み、真庭地域で農業・商業・看護の学びができる高校として進化して参りたいと考えています。

結びになりますが、本事業に伴い、御支援・御協力をいただいております皆様に感謝申し上げます。また、関係諸機関の皆様には本書を御高覧いただき、今後の本事業の充実・発展のため貴重な御意見や御助言をいただければ幸甚に存じます。

<ビジュアル資料>



1 令和4年度実施計画

(1)管理機関

ア 管理機関（市区町村・都道府県）

ふりがな	まにわし
管理機関名	真庭市
代表者職名	市長
代表者職名	太田 昇

イ 管理機関（産業界）

ふりがな	めいけんこうぎょうかぶしきがいしゃ
管理機関名	銘建工業株式会社
代表者職名	代表取締役社長
代表者氏名	中島 浩一郎

ウ 管理機関（学校設置者）

ふりがな	おかやまけんきょういくいいんかい
管理機関名	岡山県教育委員会
代表者職名	教育長
代表者職名	鍵本 芳明

(2) 事業名

自然・社会・人との対話で育む真庭型産業人材育成構想

－「環境（SDGs）」×「アグリビジネス」⇒豊かな生き方・働き方－

(3)事業概要

- ・中山間地域において自然と共生しながら持続可能な地域産業と地域を担う人を育むため、産業と教育に知見を有する真庭市職員をマイスター・ハイスクール CEO、銘建工業社員を産業実務家教員として真庭高校に配置するとともに、小中連携等に取り組む郷育魅力化コーディネーターとの配置やコンソーシアムの構築により地域で高校教育を共創する。
- ・真庭高校において、真庭市の農産物を生産・加工・販売する6次産業化への学習を農商連携により展開するとともに、地域の農林業資源を活用した農業体験や観光プランの提案等を行うアグリビジネスプランの作成に取り組む。地域関連企業と連携し、新商品の開発・提案を行うとともに、模擬会社スタイルの学習展開の中で起業家教育を推進する。

(4) 令和4年度の実施計画

ア マイスター・ハイスクールビジョン【マイスター・ハイスクール運営委員会】

- ・マイスター・ハイスクールビジョンの進捗状況を管理するとともに、評価検証を行い、令和5年度に向けてビジョンの改善を行う。

- イ 地域を担う人材育成カリキュラム【マイスター・ハイスクール事業推進委員会】
- ・マイスター・ハイスクールビジョンに基づき、自らの生き方と持続可能な地域産業を重ねて考え、地域の担い手を育成するために必要な教育課程を検討する。
 - ・真庭高校での学びを小中学生に伝える交流学习の在り方を検討する。
 - ・真庭高校と地域企業との連携について協議し、地域をフィールドとした学習展開の在り方を検討し、試行する。
- ウ 地域産業学習カリキュラム【CEO・産業実務家教員・真庭高校】
- ・令和4年度以降における環境と産業についての学びと地域産業及び地域での実習の場を、CEOを中心に検討し、産業実務家教員が課題研究等で真庭市の産業等を指導するとともに、実習先で体験的に指導する。また、地域産業学習を進路指導に結びつけ、地域の担い手を育成するキャリア教育計画を決定・実施する。
- エ 地域資源を活用した学習カリキュラム【CEO・真庭高校】
- ・令和4年度以降に食農生産科及び経営ビジネス科の全部又は一部の生徒に対して実施する。地域企業等と連携した取組内容を検討・実施するとともに、さらなる連携先や連携方法の検討を行う。
 - ・令和3年度に計画した全学科で実施する総合的な探究の時間「真庭トライ&リポート」で、テーマ『SDGs 未来杜市真庭～地域を学び、地域に学ぶ』を実施する。地域に出向き外部機関と積極的に協働して探究活動を深める。さらに、聞き書きを取り入れた班を設定し、聞き書きによる探究活動を試行する。
- オ 学校設定教科・科目の研究【マイスター・ハイスクール事業推進委員会】
- ・令和3年度に作成した真庭型産業人材育成プログラムを元に、学科横断型学校設定教、科・科目の内容と効果について検討し試行を行う。
- カ 真庭市郷育魅力化コーディネーターとの連携活動
- 【CEO・郷育魅力化コーディネーター・真庭高校】
- ・真庭市郷育魅力化コーディネーター・真庭高校による保・幼・こども園及び小・中学校との連携活動の実施。
 - ・真庭市郷育魅力化コーディネーターを中心として、教科・科目や総合的な探究の時間において、聞き書きの手法を取り入れた活動を実施する。
- キ 活動を支援する体制の構築【管理機関】
- ・本事業に参画する個人・団体を広げ、コンソーシアムを構築する。

(5)事業実施体制

意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
豊田 涼	岡山県立真庭高等学校・校長
中島 浩一郎	銘建工業株式会社・代表取締役社長
太田 昇	真庭市・市長（委員長）
鍵本 芳明	岡山県教育委員会・教育長
大月 隆行	真庭商工会・会長
岡田 茂樹	晴れの国岡山農協・真庭統括本部常務理事
澁澤 壽一	NPO 法人共存の森ネットワーク・理事長
池永 京子	Maman 代表
中村 妃佐子	株式会社 HAPPY FARM plus R 取締役

事業実行機関の構成（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
平田 勉	マイスター・ハイスクール CEO
豊田 涼	岡山県立真庭高等学校・校長
中島 洋	銘建工業株式会社・総務人事部長
道満 洋和	岡山県商工会青年部連合会・理事
三村 伸行	NPO 法人真庭めぐりガーデンプロジェクト・ゼネラルマネージャー
牧 邦憲	真庭市産業観光部・産業政策課長
安藤 紀子	真庭市教育委員会・教育次長
室 貴由輝	岡山県教育庁・高校教育課高校魅力化推進室長
杉山 俊幸	岡山県立真庭高等学校久世校地・副校長
吉原 啓之	岡山県立真庭高等学校落合校地・副校長
大越 健太郎	銘建工業株式会社・小断面工場長（産業実務家教員）
吉野 奈保子	NPO 法人共存の森ネットワーク・事務局長（真庭市郷育魅力化コーディネーター）
大岩 功	一般社団法人はにわの森・代表（真庭市郷育魅力化コーディネーター）
三村 公一	真庭支部中学校長会・会長

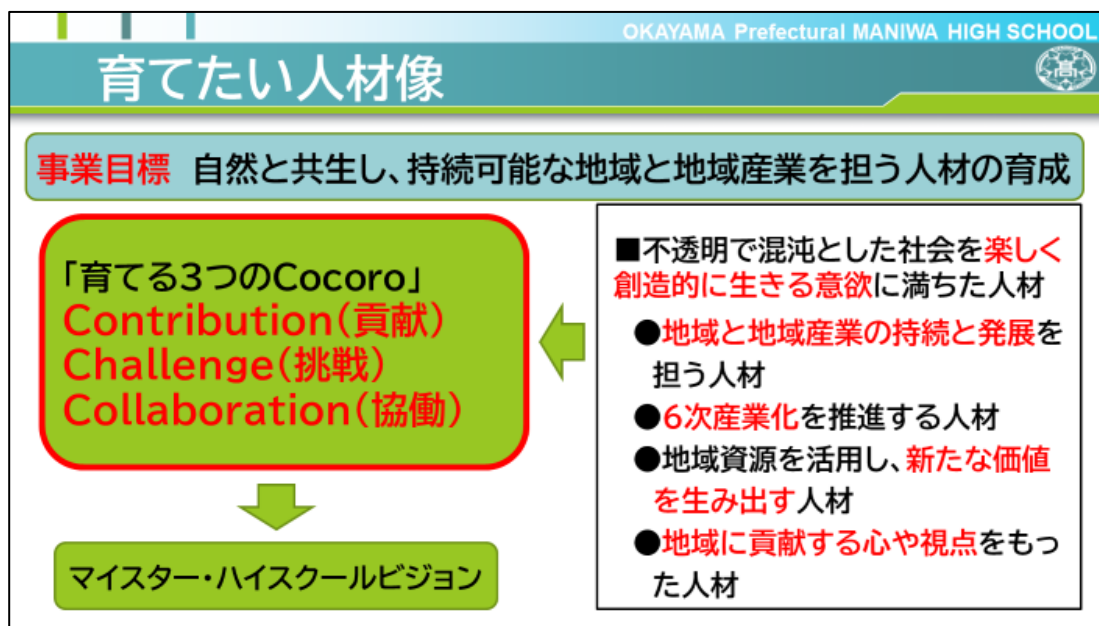
(6) 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（契約日～令和5年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①マイスター・ハイスクールビジョン				○				○				○
	○印 運営委員会		7月・11月進捗状況確認					評価・検証				
②地域を担う人材育成カリキュラム			◆					◆				◆
	◆印 事業推進委員会			交流学习・地域産業界連携協議								
③地域産業学習カリキュラム				★						★		
	SDGs講演会		研修調整		銘建工業バイオマス学習					検証・次年度計		
④地域資源を活用した学習カリキュラム												★
	真庭トライ&レポート実施			真庭トライ&レポート発表会								
	地域連携内容検討、連携実施								検証・次年度計画			
⑤学校設定教科・科目の研究			◆					◆				◆
	ニーズ調査		外部企業との連携・試行					◆事業推進委員会開催時に検討・調整				
⑥真庭市郷育魅力化コーディネーターとの連携活動		★										
	聞き書き講座		真庭トライ&レポート参画									
	植栽交流等の事業実施								次年度交流学习計画			
	保・幼・こども園、小・中学校連携調整											
⑦活動を支援する体制の構築												
	事業参面の個人・団体募集とコンソーシアムの構築											

2 実施目標

(1)育てたい人材像

事業目標である「自然と共生し、持続可能な地域と地域産業を担う人材の育成」に向けて「育てる3つのCocoro」をかかげ、マイスター・ハイスクールビジョンに沿って取り組んだ。



(2)マイスター・ハイスクールビジョン

マイスター・ハイスクールビジョンは次の5項目を設定し、地域と協働しての魅力ある学習を展開することを目標に取り組んだ。

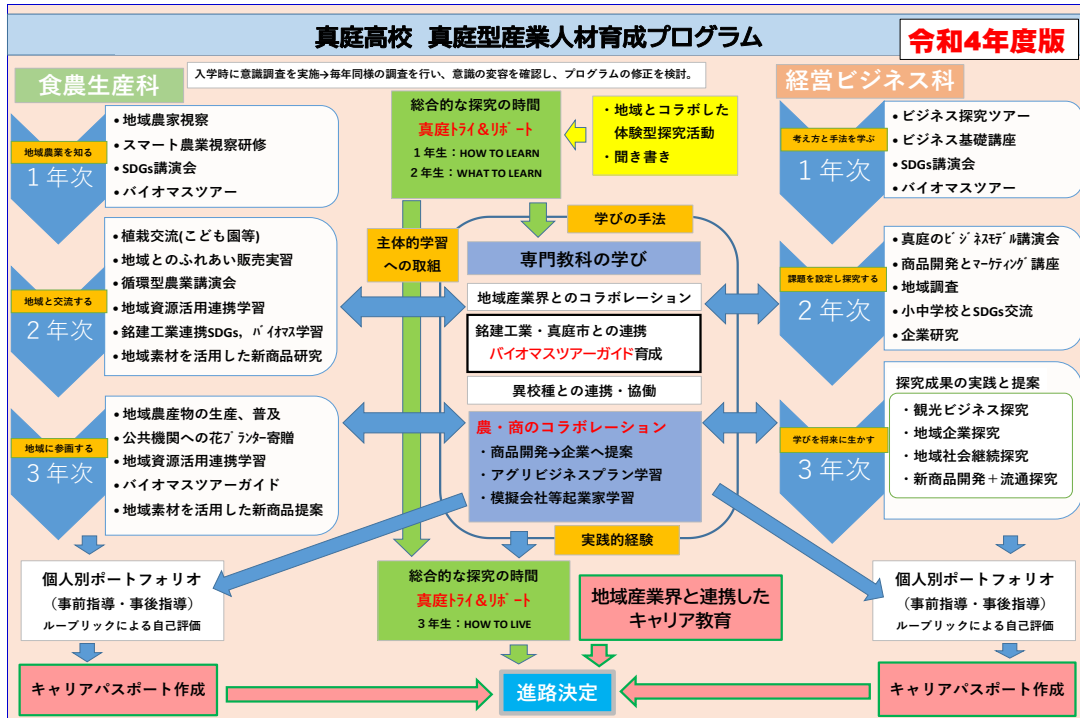
- I 農林業・商業のスキルを獲得することを目指し、地域産業と連携した学習を行います。
- II ビジネスプランの学習を通して、学科間連携を取り入れ、地域を学びのフィールドとした課題解決型の学習を行います。
- III 里山の豊かさを体感し、地域を愛する心の醸成を図るため、地域人材を活用した学習を行います。
- IV 地球環境や循環社会の学習として、真庭市が進めるバイオマスを学び、より実践的な活動に結びつけます。
- V 地域の保・幼・こども園及び小・中学校や住民と連携した地域貢献活動の充実を図り、地域課題の発見と解決に寄与します。

(3)事業計画における目標値

- ◆真庭高校魅力化コンソーシアムに参加する団体及び個人⇒20 以上
- ◆生徒の聞き書き等に協力する高齢者の数⇒5 人／年
- ◆専門教科の中で地域に出て学ぶ機会の充実⇒授業時間の 1 / 6
- ◆小・中学校等と連携した事業の回数⇒3 回／年
- ◆地域資源を生かした産業の創出に参画した件数⇒1 件／年
- ◆地域連携活動に取り組んでいる生徒の割合⇒60%
- ◆これから先、どのように生きていきたいかを考えている生徒の割合⇒80%以上
- ◆真庭市に誇りを持つという生徒の割合⇒80%以上

(4)真庭型産業人材育成プログラム

令和3年度の取組みにおいて、「真庭型産業人材育成プログラム」を策定した。



このプログラムは、2本の柱で構成している。1つは総合的な探究の時間「真庭トライ&レポート」である。この取組みは平成22年度から行っている真庭高校の特色ある学びの手法であり、地域とのコラボや聞き書きなどを通して五感を活かした体験活動を行い、「学びの手法」「主体的学習への取組」を身に付けさせている。本プログラムでは、この探究学習を活かして専門教科の学びを深化させる。

岡山県立真庭高等学校 総合的な探究の時間 ■2019年5月～真庭SDGsパートナー ⇒ Think Globally Act Locally

R04真庭トライ&レポート (TR)

トライ：五感を通じた実体験重視
レポート：必ず発表に結びつける姿勢 (ほととめ冊子・発表会・外部への招待など)

3年生：HOW TO LIVE
進路実現・卒業後の生活のために学ぶ
※進路実現に直結・個人

2年生：WHAT TO LEARN
自分で課題を設定し、調べる
※2学科ミックス・生徒主体・グループ単位

1年生：HOW TO LEARN
ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ
※3学科ミックス・担当教員主導・グループ単位

1年生 食農生産・経営ビジネ&社・看護 木曜6限
2年生 普通・看護 木曜6限
3年生 普通 月曜6限

五感を通じた実体験
質・量の向上

TRを通して身につけさせたい4つの力

論理的思考力

ねばり強さ

協働性

地域参画力

シンキングツール活用 (OUTPUT書く話す行動する⇒INPUT聞く読む)

【失敗=×じゃない!】 ⇒ 失敗体験 (試行錯誤) からの気づき

【集団がチームになるまで】 ⇒ みんなで一つのこと・各自の強みで役割分担

【=地域貢献力】 ⇒ 地域に関心、地域課題の理解、地域の人との協働

真庭トライ&レポートは、1年生で「ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ」ことを目的とし、食農生産科・経営ビジネス科・看護科の3学科ミックスした4～5人のグループ編成で学習を進めた。3年時の進路実現に向けて学びの手法をステップアップする展開で実施する。

令和4年度は、地域企業・公共機関等と連携して学習を進めるとともに、福祉・医療や農業関係の聞き書きにも取り組み、地域をフィールドとした五感を通じた実体験を大切に探究活動を行った。

もう1つの柱は、地域をフィールドとした専門教科の学びである。真庭高校の農業学科では以前から地域交流、地域貢献活動を学びに取り入れてきた。本事業では、食農生産科・経営ビジネス科の専門教科において、地域を知り、地域で活躍する方々の姿を見て言葉を交わすことで「自然・社会・人との対話」で生徒の学びを深める。

さらに、2・3年次には「農・商のコラボレーション」による商品開発、アグリビジネスプラン学習、起業家学習に発展させ、これらの実践的経験を個人別ポートフォリオ、キャリアパスポートに結びつけ、進路決定につなげる。

(5)5つの事業推進目標

令和4年度は、令和3年度における事業推進課題を検討し、真庭型産業人材育成プログラムを専門教科の効果的な学習展開に結びつけるために、5つの事業推進目標を掲げ取り組んだ。

- ア マイスター・ハイスクールビジョンと地域産業学習のリンク
- イ 産業実務家教員と連携して魅力アップ
- ウ 郷育魅力化コーディネーターと連携して活動
- エ 地域産業界との連携強化
- オ 地域との協働体制（コンソーシアムの構築）

3 地域の概要

(1)真庭市の概要

真庭高校の位置する真庭市は、豊かな自然に囲まれ、農林業、ジャージー牛などの畜産が盛んな地域であり、出雲街道の要所として古くから祭・温泉の観光や伝統工芸、酒や酢・味噌などの伝統産業の栄えた地域である。近年ではバイオマス、SDGsの先進地として、バイオマス発電やバイオ液肥を活用した農業促進、地域資源を観光に活かす観光地域作りなど、市民とともにSDGs達成を目指す活動を展開している。

(2)銘建工業株式会社の概要

銘建工業株式会社は、全国トップクラスの集成材事業を中核に、創業以来の国産材製材事業を含めて、主に住宅用木質構造材の供給を行っている。さらに製材工程で発生する木屑等を利用した木質バイオマス事業では、電力の販売や木質ペレットの製造販売を行っている。

4 令和4年度実績概要

令和4年度は、本事業で指定された「農：食農生産科」と「商：経営ビジネス科」が設置された。しかし、新設学科のため学習展開と地域連携の取組みが確立しておらず、新たに配置された専門教科の教員数も少数しかいないため学科運営に苦慮したが、CEO・産業実務家教員と専門教科教員を中心にマイスター・ハイスクールビジョンで示す地域産業学習に沿った取組みを検討・リストアップし、順次着手した。既存の学科においては、これまで培ってきた地域連携・地域貢献活動を継続して実施した。

今年度の推進課題として、マイスター・ハイスクールビジョンと地域産業学習のリンクをあげた。ビジョンに基づいた専門科目及び学習学年とのリンクについて検討を重ね、産業界と連携した教育課程の構築を進めた。各ビジョン達成のための学習内容を想定し、今年度の活動に取り組んだ。次に実施した取組みと活動の様子を示す。

(1) I 農林業・商業のスキル獲得と地域産業と連携した学習

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL	
I 農林業・商業のスキル獲得と地域産業と連携した学習	
目指す学習内容	R4年度の取組
地域特産品の栽培技術を学び、その普及のための先進農家との連携	・JA晴れの国岡山と連携したフルーツパブリカ「ぱぷ丸」苗の生産 ・先進農家視察研修
特産品のマーケティング学習	・真庭あぐりガーデンとの連携協議
産業界と連携したキャリア教育	・校内企業説明会【地元企業参加】 ・しごと研究講座【地元企業参加】 ・インターンシップ
スマート農業の知識・技術を学び、専門スキルを習得	・センシングドローンによる登熟歩合調査とスポット施肥実演講習

ア JA 晴れの国岡山と連携したフルーツパブリカ「ぱぷ丸」苗の生産

フルーツパブリカ「ぱぷ丸」は、真庭市が産地化を進めている野菜である。高校生が学校農場で育苗し、生産した苗をJA晴れの国岡山真庭統括本部を通じて農家へ引き渡し、産地化に寄与している。生徒達は、平素の学習を活かすことのできる地域貢献活動として熱心に取り組んでいる。



イ スマート農業学習による専門スキルの習得

スマート農業の取り組みとして、真庭市農業振興課と連携してセンシングドローン研修を行った。小型ドローンの操作は実習で経験していたが、大型ドローンを見るのは初めてで、センシングと肥料のスポット施肥を実演していただき、興味深く研修した。



【令和4年度センシングドローン研修】

- 1 実施科目名・単位数：作物・2単位
- 2 目的・ねらい
 - ・ドローンの優れた機能性と運用性を理解する。
 - ・精密かつ効率的なスマート農業を学ぶ。
- 3 活動計画
 - (1) 実施日時

令和4年10月6日(木) 10:00~11:50

(2) 実施場所および講師

実施場所：真庭高校久世校地実習田

講師：福田農機株式会社 代表取締役社長 福田 順也氏ほか3名

(3) 対象生徒

生物生産科3年生農業技術類型 15名

(4) 活動の概要

無人航空機「ドローン」によるリモートセンシングを活用し、イネの登熟歩合を調査し、収穫の適期を診断する。

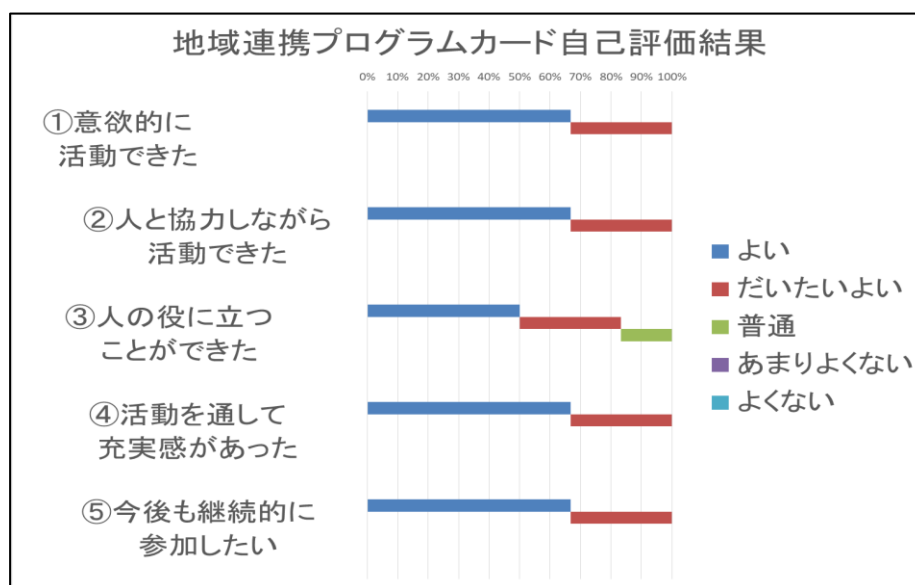
4 生徒の感想・振り返り

- ・想像以上に大きいドローンがあり、興味が沸いた。
- ・ドローンのすごさと流用性が知ることができた。
- ・ドローンが、以前よりもとても発展していることを知った。
- ・私たちが先週の実習で時間をかけて行った刈り取り時期の調査が、ドローンでは一瞬で終わるのに驚いた。

5 成果と課題

生徒の自由記述と意識調査から成果検証を行った。活動を通し80%の生徒が肯定的評価を行っており、自己肯定感の醸成に大きな効果があった。また、生徒の中には、家族が専業農家や兼業農家であり、センシングドローンの導入を検討あるいは決定しているとの発言もあった。

今後も、生徒が作物等の生産や経営に体系的に理解し、ICTやAIなどの先端技術を活用できるように実習を授業や実習を展開していきたい。そのために地域や産業界などとの連携を強化していく。



ウ 地元企業と連携したキャリア教育

キャリア教育においては、地元企業にも参加いただいて職種や会社の説明を聞き、地元産業の理解を深めた。さらに、地元企業を中心に3日間のインターンシップにも取り組んだ。



【先進農家視察研修】

1 実施科目名・単位数 総合実習・3単位

2 目的・ねらい

- ・農業高校生に対し、アグリイノベーター（先進的農業経営者）等が研修会で経営方針や創意工夫に関する講話、農作業実習を通じて農業が魅力的でやりがいのある職業であることを理解させ就農への意識づけを行う。

3 活動内容

(1) 実施日時

令和4年11月2日（水） 9:00～15:30

(2) 実施場所および指導者・講師

株式会社日本植生 北房農場：企業によるブドウ経営

株式会社城北農産アイガモファーム：スマート農業の操作体験

中国四国酪農大学校：酪農大学校の視察研修

主催：岡山県美作県民局（真庭農業普及指導センター）

(3) 対象生徒

食農生産科科1年生（38名）

(4) 活動の概要

岡山県美作県民局主催で真庭市の先進農家や酪農大学校の視察を通して、農業について実際に農家を訪ね、知識の深化をさせることを目的に実施した。生徒達は



初めてスマート農業（トラクタの自動走行による耕耘体験、リモート操作による畦草刈り機の体験、ドローンによる薬剤散布の見学）にふれる者がほとんどであるため、農業に対する興味・関心の意識付けをねらって実施した。

4 生徒の感想・振り返り

- ・はじめてトラクタに乗り、しかも自動運転ができることにびっくりした。ハンドルを持たないと変な方向に行くのではないかと不安だったが、ちゃんと GPS と連動して動いていてすごいと感じた。
- ・牛自体見ることはないのに、臭かったけど、かわいかった。
- ・企業が農業をしていて、しかも専業農家よりも大規模にブドウを栽培していてすごいと思った。あと、海外にまで出荷を視野に入れているので、日本だけのレベルの話ではないと感じた。

5 成果と課題

従来の農業のスタイルではなく、いろいろな機材や技術で農業が難しかったり、苦しいものという概念が今回の研修で生徒の中では変化が出たと思われる。また、落合校地では畜産がないために牛に触れることがないが、酪農大学校での見学では生徒の意見に賛否はあったものの、動物に触れること自体が生徒にとって新鮮な体験であったと感じた。移動距離が長かったのがネックではあるが、それよりも生徒が得た体験の効果は十分に得られたと感じた。今回の実施が11月であったため農繁期も終わったあとでもあったため、スケジュールの検討が必要と感じた。

(2) II ビジネスプラン学習と学科間連携

ア 地域の特産品を使った商品開発と販売実習

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL	
II ビジネスプラン学習と学科間連携	
目指す学習内容	R4年度の取組
地域の特産品を使った商品開発とビジネスプランの提案	・真庭あぐりガーデンとの連携協議 ・まにわSDGs DAY
地域の産業や環境を活かした観光ビジネスの学習	ビジネス探究ツアー(7月・9月)
ビジネスプランを基にしたビジネスコンテストへの挑戦	【経営ビジネス科及び農・商コラボにおいてR5年度以降実施予定】
地域産業との協働による起業体験	オープンイノベーション伴走型インターシッパ 【農・商コラボ:R5年度以降実施予定】

【まにわ SDGsDAY への参加】

- 1 実施科目名・単位数：総合実習・4単位
- 2 目的・ねらい
 - ・地域の企業とコラボし、学習の成果を示す。
 - ・地域に対する理解が深まりと関心が高くなる。
 - ・コミュニケーション能力が向上する。
 - ・真庭のSDGsについて考え、自ら企画し、参画する。

3 活動計画

(1) 実施日時

令和4年12月10日（土） 12:00～16:00

(2) 実施場所

真庭めぐりガーデン

(3) 対象生徒

食品科学科3年生5名

(4) 活動の概要

真庭めぐりガーデンにおいて、まにわSDGsDAYのイベントが開催された。真庭めぐりガーデンとのコラボ商品、イノシシメンチカツサンドを企画し、販売した。

事前に真庭めぐりガーデンを見学し、販売する商品について担当の方と打ち合わせをした。当日はイノシシ肉を使ったメンチカツを真庭めぐりガーデンで、メンチカツのソース（ばふ丸ソース）・コッペパンを真庭高校で製造したものを使用し、製造販売した。その他、真庭市蒜山地区産リンゴ・真庭高校産サツマイモを使ったサツマイモクリームサンド、コッペパン、クッキーパン等を来場者に販売した。



4 生徒の感想・振り返り

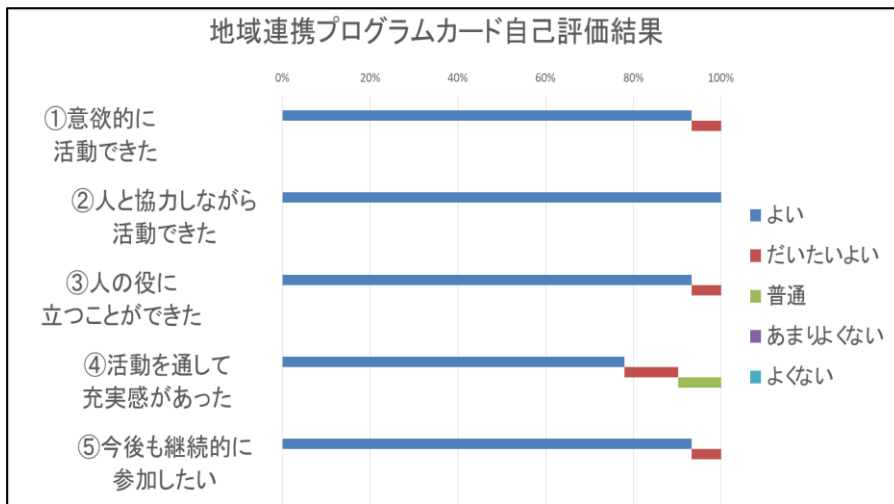
- ・小さい子どもがたくさん買ってくれてうれしかった。
- ・地域のお客さんがたくさん来られて、楽しかった。
- ・コッペパンがおいしいと言ってもらえてうれしかった。
- ・イノシシメンチカツサンドの注文がなかなか入らず、販売に苦労した。
- ・時間がかかったけど最終的に商品がほとんど売れて、達成感があった。
- ・給食に真庭高校のコッペパンがあったらと言ってもらえた。

5 成果と課題

生徒の自由記述と意識調査から成果検証を行った。

活動を通し 90%以上程度の生徒が肯定的評価を行っており自己肯定感の醸成に大きな効果があった。またコミュニケーションに課題を持つ生徒もおり、販売実習など地域の方と接する機会を繰り返し経験することで身についていくと思われる。

今後、より自身の進路・関心とリンクしていくよう、専門科目で学習する内容との関連性を意識させ指導していきたい。



イ 地域を活かした観光ビジネス学習

【真庭ビジネス探究ツアー(ビジネス基礎)「SDGs×アグリビジネス×観光」】

経営ビジネス科では、実体験を活かした学びにつなげるため、地域を知り、人と出会い会話することを目的として2回の「ビジネス探究ツアー」を実施した。

【真庭ビジネス探究ツアー(北部)】



1 実施科目名・単位数：課外・地域活動

2 目的・ねらい

真庭市の地域特性や地域資源を活かした生業を生み出している人を知ること、真庭地域への興味関心を喚起するとともに、観光資源や地元特産物をビジネスに繋ぐ手法を学び、「マーケティング・商品開発と流通（2年）」および「観光ビジネス（3年）」の学習の基礎とする。

3 活動内容

(1) 実施日時

令和4年7月11日（月） 8:45～16:00

(2) 実施場所および講師

GREENable HIRUZEN 講師：高見 智氏

ひるぜんワイナリー 講師：代表取締役社長 植木 啓司氏

蒜山耕藝 講師：吉野 奈保子氏・高谷 裕治氏・高谷 絵里香氏

田村 陽至氏・田村 芙美氏

湯原振興局 講師：情報センター 伴野 良子氏

湯原温泉 八景 講師：女将 上塩 浩子氏

(3) 対象生徒

経営ビジネス科1年生32名（男子23名、女子9名）

(4) 活動の概要

真庭市の北部である蒜山・中和・湯原のくらしや地域資源や自然を生かした生業について学ぶためにバスツアーを実施した。GREENable HIRUZEN ではCLTのモニュメントを見学し、蒜山の風土や地域資源を活かした観光ビジネスを学んだ。ひるぜんワイナリーでは、蒜山の自然とワインづくり、ワイナリーを開くまでのヒストリーから、地域資源の活用や今後の展開を学んだ。昼食はひるぜんジャージーランドで蒜山の自然や酪農を感じながら食事をとった。蒜山耕藝では、高谷夫妻、ブルーランジェリー・ドリアン、田村夫妻、真庭市郷育魅力化コーディネーターの吉野氏に中和の自然の成り立ちとそこでの暮らしや地域の魅力や地域資源を活かした生業を聞き、新しい価値を生み出す生き方を聞いた。湯原温泉では、湯原温泉の概要と湯原温泉を盛り上げるための取り組みを聞き、はんざきセンターの見学を行った。また、足湯体験により地域資源の活用を肌で感じた。最後に、湯原温泉の八景では、旅館業として大切にしていることや旅館業を続けていく上での課題や挑戦を聞いた。

4 生徒の感想・振り返り

- ・真庭に可能性を感じた。
- ・真庭の水がおいしく、他の地域の人を呼び込めるだけの力があることが分かった。
- ・SDGsに関わることやお客のニーズを調べ上げて商品開発をしてみたい。

- ・もっといろいろな企業の取り組みや成功したポイントなどを知りたい。職場体験もしてみたい。
- ・経営ビジネス科で商品をつくり、その大変さを経験してみたい。
- ・お客様の求めるものを考えていける創造力をつけたい。
- ・真庭のいいもの（水や野菜）をたくさん使って、多くの人に知ってもらいたい。
- ・今までお金を稼ぐ生活をしようと思っていたが、周囲に目を向け誰かの助けになる人になりたい。
- ・僕の将来の夢は地域の復興に協力することだったが、このツアーで地域の活性化に力を入れたいくなった。
- ・失敗を恐れず、何度でも挑戦していける強い心を持ちたい。
- ・新しくビジネスを展開するとしたら、利益ばかりを追いかけず、人と人のつながりや地域のことを思う心を大切にしたい。これまで都会にチャンスがあると思っていたが、これからの時代、田舎の方がチャンスがあると思うようになった。将来、この地域だけの特色などを生かして、都会に負けない地域にしたい。

5 成果と課題

生徒達の振り返りの多くが、このビジネスツアーが実りあるものになったというものだった。真庭に住んでいながら知らなかったこと、真庭に住んでいるからこそ気づけなかったことなど、新しい真庭の魅力や資源を知った感想が大多数を占めていた。また、今後の経営ビジネス科のなかでしてみたいことも具体化してきた。座学よりも自分たちで考えてビジネスに関する経験を積みたいという感想が多数であり、特に湯原振興局での商品開発に力を入れたいという生徒が幾人かいた。今回お話を聴いた方々の多くが、県外から真庭に移住してきた方だったので、それも生徒にとって新鮮だったようだ。生徒にとって真庭は『ただの田舎・何もない田舎』であり、人を呼び込めるだけの求心力には欠けると思っていた。今回の講話を聞き、自分たちの住む真庭に自信を持つ生徒が現れた。それに関連して、感想に「一度市外・県外に出て別の視点を獲得することの大切さ」を書く生徒が多くおり、自宅でも保護者にその話をした生徒もいて、進路学習としての側面もあらわれた良いツアーだったと思う。

【真庭ビジネス探究ツアー(南部)】

- 1 実施科目名・単位数：課外・地域活動
- 2 目的・ねらい

真庭市の地域特性や地域資源を活かした生業を生み出している人を知ることで、真庭地域への興味関心を喚起するとともに、観光資源や地元特産物をビジネスに繋ぐ手法を学び、「マーケティング・商品開発と流通（2年）」および「観光ビジネス（3年）」の学習の基礎とする。

3 活動内容

- (1) 実施日時

令和4年9月27日(火) 8:45~16:00



(2) 実施場所および講師

UEDAVILLAGE 講師：芦田倍芳氏

村民体験プログラム企画運営「さとてらす」代表 和田ひろみ氏

きよとうカフェ&ファーム 講師：谷本吉照氏・平泉繁氏

真庭市立中央図書館 講師：ろまん亭 店主 松尾敏正氏

旧遷喬小学校 講師：おかもと旅館代表取締役

市民応援団「まにワッショイ」代表 岡本康治氏

河野酢味噌製造工場 取締役・「まにわ発酵's」 河野尚基氏

(3) 対象生徒

経営ビジネス科1年生 32名(男子23名、女子9名)

(4) 活動の概要

真庭市の南部である落合・北房・勝山・久世の歴史と景観を生かした暮らしや、地域資源や自然を生かした生業について学ぶためにバスツアーを実施した。

UEDAVILLAGE では上田地区の歴史や旧上田小学校の利活用、普門寺では上田地区を中心とした村民体験プログラムを提供する「さとてらす」の取り組みについて学んだ。

きよとうカフェ&ファームでは、果物農園に併設した「きよとうカフェ」の6次産業化の取り組みや地域資源の活用や情報発信について学んだ。また、農園の果物やデザートを試食し、味覚を通じて地域資源の活用を感じ取った。真庭市立中央図書館では「ろまん亭」の経営者でもある松尾氏から経営について話を聞いた。旧遷喬小学校では、「割烹旅館おかもと」の代表取締役である岡本氏から5代続いている老舗旅館の経営や「まにワッショイ」を通じた地域おこしの取り組みについて話を聞き、「河野酢味噌」の河野氏からは真庭の発酵文化やそれを広める「まにわ発酵's」の取り組み

について学んだ。

4 生徒の感想・振り返り

- ・真庭にはジャージー牛乳やバイオマスぐらいしかいいところがないと思っていたけれど、発酵食品も有名なことが分かった。
- ・経営とは、幸せの互惠作業、人生とは生き方×熱意×能力だと言うことがすごく印象に残った。
- ・ウエダビレッジは廃校を上手く活用してたくさんの人の役に立つ場所に出来たことがすごいと思った。サービスもしっかりしていて、とても居心地がよく、どんな場所も工夫しだいで何でもできることが分かった。
- ・ビジネスをしていく上で、考え方、熱意、能力が大切だと聞き、学校はその中でも能力を伸ばすことができる場所なので、将来、能力が欠けて自分のしたいことができないとならないように頑張りたい。
- ・真庭の伝統と先進的な部分を融合することができれば、新たな何かが生まれそうだなと思った。
- ・田舎に店をつくって、上手く PR することで、もしかするとその地域に住もうとする人もいるかもしれないと思った。
- ・これまで地域に貢献するためには、外から人を呼び込む取り組みや外部へ地域の魅力を伝えることが必要と思っていたが、まずは地域に住んでいる人々を支援したり、一丸となって盛り上げたりする活動が必要だと思った。
- ・私は、松尾さんが言う「人のたまり場」みたいな美容室を作りたいと思う。
- ・考え方や熱意は心の問題で、より柔軟により熱く何事にも取り組むよう意識したい。まずは、笑顔を大切にしたい。

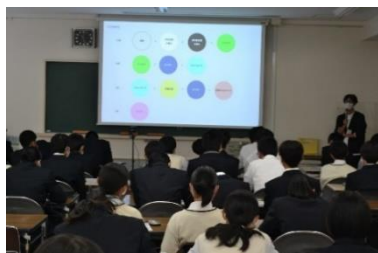
5 成果と課題

今回の真庭市南部は多くの生徒の居住区域ということもあり、実施前は「知っている。行ったことがある」といった反応だった。しかし、いざ訪問すると周辺に住む生徒が他地域の生徒に説明する姿が見られ好印象であった。一回目の北部ツアーに引き続き、生徒達の振り返りの多くが内容に満足したというものだった。訪問場所がカフェやグランピングといったフォトジェニックな場所が多く、生徒達の振り返りにも SNS を活用した PR 活動を提案する生徒が数名現れた。「真庭の活気」を感じる生徒が多く、その理由をカフェやグランピングなど若者が集まりそうなモノが多くあることと、真庭市民の人的関係に見いだした。真庭市の人々は地域の伝統や資源を大切にしており、その伝統や資源を保護しようと熱意を持っている人が多いと感じたようだ。そこから生徒達は、ビジネスの成功は経営の知識だけで無く、「熱意」や「笑顔」、「楽しむこと」など自身の気持ちの持ちようも大切であることを学んだ。

ウ 地域産業との連携による起業体験

この事業は、真庭市の企業と都心の企業が連携して新規事業を創出する現場に生徒

が参加し、現場に存在する様々な課題やそれに立ち向かう協働の姿を見ることにより、柔軟な発想や必要とされる知識やコミュニケーション能力の重要性に気づき、6次産業化や商品開発、マーケティングなどへの学習意欲を高め、新たな価値を創出し地域の未来に貢献する人材の育成に資することを目的としている。高校生がオンライン参加し、伴走する形でインターンシップとして取り組んだ。



OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

地域産業との連携による起業体験

オープンイノベーション伴走型インターンシップ

真庭市の地域課題に対する10個の問いに対する回答から真庭市内の企業と都心の企業をマッチングして3つのチームを作り、それぞれで新規事業を創出する。その全ての課程に真庭市内の希望する生徒が参加するとともに、創出された新規事業を発表する。

01 地域の 소상공業者がデジタルマーケティングで売上を上げるには？	02 モノの価値だけではない付加価値のデザインとは？
03 産業を起点としたサーキュラーエコノミーの可能性とは？	04 カルチャーを地域に紐付けていくには？
05 真庭ならではの新たな学びの可能性とは？	06 地域内外の人材の流動性を上げるには？
07 多様な人々が活躍できるキャリアに多様性を持たせるには？	08 地域の人々が手軽に使えるモビリティの可能性とは？
09 高齢者がイキイキ暮らせるウェルビーイングの可能性とは？	10 真庭のヒノキの新たな活用の可能性とは？

参加企業の募集とマッチング → ビジネスアイデア創出プログラム → ビジネス発表

8月-10月 11月-1月 2月

「真庭の未来を創出する」に向け、創出された地域産業と都心の企業をマッチングし、アイデア創出プログラムを実施。参加企業と都心の企業をマッチングし、アイデア創出プログラムを実施。参加企業と都心の企業をマッチングし、アイデア創出プログラムを実施。

10月18日 真庭高校説明会 → 11月12-13日 アイデアを練る → 12月 アイデアのビジネス化

生徒のインターンシップ → ~2月 新規事業化 → 発表

(3) Ⅲ 地域を愛する心の醸成と地域人材活用

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

Ⅲ 地域を愛する心の醸成と地域人材活用

目指す学習内容	R4年度の取組
地域人材から学ぶ「聞き書き」	真庭トライ&レポートで実施中
地域をフィールドとした研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーブ活用学習会 ・牛セリ市視察研修
地域・産業界などの人材を外部講師として活用	「ビジネス基礎」地域産業界講師活用(業種別に8社協力)
地域活動、地域ボランティアなどへ参加・企画・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・公共機関への花プランター寄贈 ・ショッピングセンター販売ボランティア ・おちあいまちかど展覧会

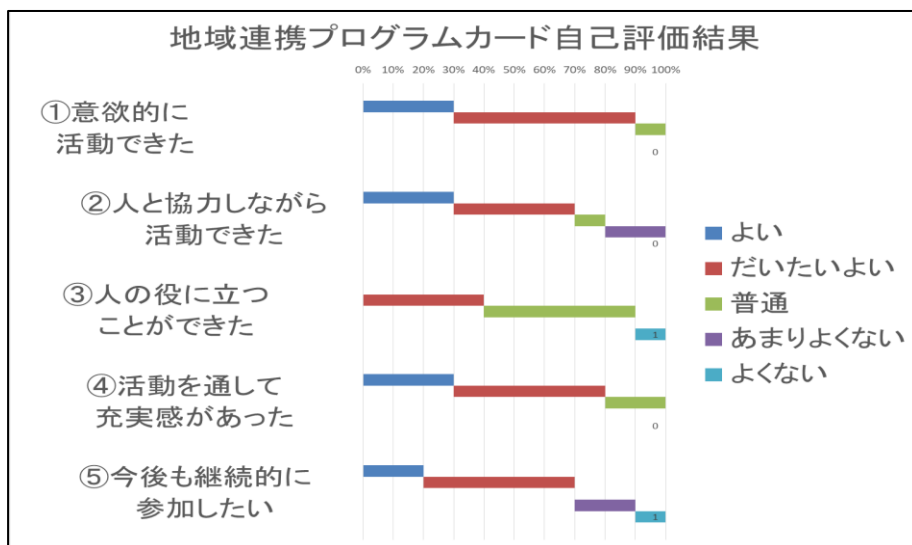
ア 地域をフィールドとした研修

地域をフィールドとした学習では、地域施設を利用することで、地域を知り、地域の良さや伝統を体感し、授業では経験できない専門教科の学びを深めた。

【ハーブ活用学習会】

- 1 実施科目名・単位数：生物活用・2単位
- 2 目的・ねらい
 - ・日頃の学習の深化
 - ・地域に対する理解が深まりと関心が高くなる。
 - ・草花を活用した加工品作成の技術や考え方を学ぶ。
- 3 活動計画
 - (1) 実施日時
令和4年7月13日(木) 10:00~12:00
 - (2) 実施場所および講師
蒜山ハーブガーデン ハービル 講師：小谷 幸正氏
 - (3) 対象生徒
生物生産科3年生草花専攻生 14名
 - (4) 活動の概要
ハーブガーデンの散策と栽培されているハーブについての講話。また、ドライフラワーを用いたリース作りの実技講習。ハーブや草花の活用について学ぶ。
- 4 生徒の感想・振り返り
 - ・学校で栽培しているのを知っていたが詳しくハーブのことを知ることができてよかった。
 - ・リースの作成でアレンジメントの技術が上がった。
 - ・ハーブのいろいろな活用方法が知ることができてよかった。
 - ・課題研究の参考になった。
- 5 成果と課題

生徒の自由記述と意識調査から成果検証を行った。活動を通し①②④⑤については70%以上の生徒が肯定的評価を行っており自己肯定感の醸成に大きな効果があった。課題研究でハーブについて取り組んでいる生徒もおり、有意義な活動となった。その他の生徒も自信が取り組んでいる課題研究にリンクさせ主体的に活動することができた。今後、より自身の進路・関心とリンクしていくよう、専門科目で学習する内容との関連性を意識させ指導していきたい。



OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

地域をフィールドとした研修

ハーブ活用学習会



生物生産科

- ・学校で栽培しているのを知っていたがハーブのことを詳しく知ることができてよかった。
- ・リースの作成でアレンジメントの技術が上がった。
- ・ハーブのいろいろな活用方法を知ることができた。
- ・課題研究の参考になった。

牛セリ市視察研修



生物生産科

- ・和牛(黒毛和種)の血統を改めて学ぶことができた。
- ・今後も、命に感謝して食事を取ってほしいと思う。
- ・せり市の運営や仕組みについて学習することができた。
- ・今回のせり市の平均価格が、ここ最近と比較すると低い傾向だと考えた。インターネットなどで市場の動向を調べてみたい。

【牛セリ市視察研修】

- 1 実施科目名・単位数：総合実習・4単位
- 2 目的・ねらい
 - ・農業に関する幅広い見識を深める。
 - ・肉用牛の流通形態を理解する。
- 3 活動計画
 - (1) 実施日時
令和4年7月22日(金) 9:00~12:00
 - (2) 実施場所
岡山県総合家畜市場(岡山県真庭市草加部)

(3) 対象生徒

生物生産科3年生畜産専攻生6名

(4) 活動の概要

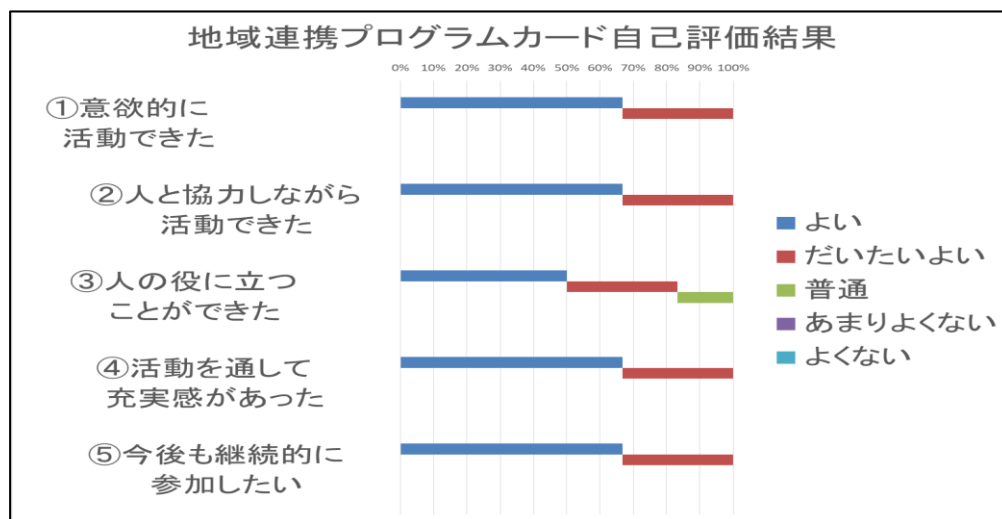
生徒が、和牛子牛市場におけるせり市の現地の様子を見学することにより、肉用牛の流通形態を理解するとともに農業に関する幅広い見識を深める。

4 生徒の感想・振り返り

- ・和牛（黒毛和種）の血統を改めて学ぶことができた。
- ・今後も、命に感謝して食事を取っていかうと思う。
- ・せり市の運営や仕組みについて学習することができた。
- ・今回のせり市の平均価格が、ここ最近と比較すると低い傾向だと考えた。インターネットなどで市場の動向を調べてみたい。

5 成果と課題

生徒の自由記述と意識調査から成果検証を行った。活動を通しほぼ100%の生徒が肯定的評価を行っており、自己肯定感の醸成に大きな効果があった。また、見学では肉用牛や酪農などの業種への就職を希望している生徒が多かった。現地の様子を見学することにより、生徒の進路決定にむけての参考になったと考える。今後も地域や産業界などと連携し、実践的、体験的な学習活動の場を設けて、生徒が主体的に学べるように指導していきたい。



イ 地域ボランティアへの参加

地域を愛する心を醸成するため、学科の特性を活かした地域ボランティアにも積極的に参加してきた。



地域ボランティアへの参加

公共機関への花プランター寄贈

- ・自分たちが作成したプランターで市内を装飾できてよかった。
- ・プランターは重く、運ぶ際に気をつけた。
- ・市役所などの人たちに喜んでもらえてうれしかった。



生物生産科

ショッピングセンター 販売ボランティア



経営ビジネス科

落合まちかど展覧会



ハーバリウムの展示



食農生産科

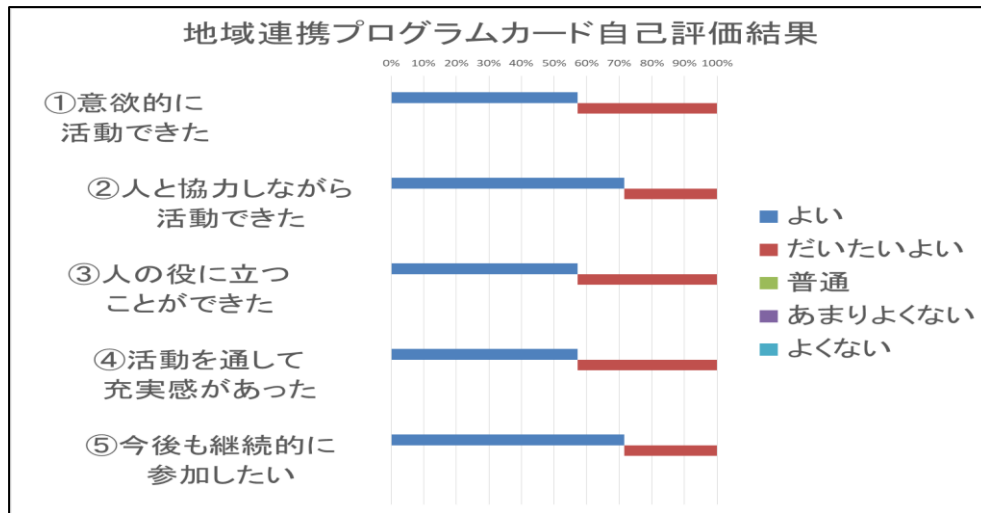


【公共機関へのプランター配布】

- 1 実施科目名・単位数：総合実習・4単位
- 2 目的・ねらい
 - ・学習の成果を示す。
 - ・地域に対する理解が深まりと関心が高くなる。
 - ・コミュニケーション能力が向上する。
- 3 活動計画
 - (1) 実施日時
令和4年6月7日（火） 14:00～15:00
 - (2) 実施場所
真庭高等学校久世校地 農場（プランター定植および栽培）
真庭市内公共施設（真庭市役所、美作県民局、真庭市役所）
 - (3) 対象生徒
生物生産科3年生草花専攻生7名
 - (4) 活動の概要
自分達で栽培した草花苗でプランターを用い寄せ植えを作成し市内公共施設に配布・装飾する実習を行う。地域の方の目に触れる場所で自分達の学習活動について知ってもらい、潤いのある空間を創造する。
- 4 生徒の感想・振り返り
 - ・自分たちが作成したプランターで市内を装飾できよかった。
 - ・プランターは重く、運ぶ際に気をつけた。
 - ・市役所などの人たちに喜んでもらえてうれしかった。

5 成果と課題

生徒の自由記述と意識調査から成果検証を行った。活動をとおしすべての生徒が肯定的評価を行っており自己肯定感の醸成に大きな効果があった。生徒自身の日々の実習が外部とのつながりに役立っていることが実感できたように感じる。今後、より自身の進路・関心とリンクしていくよう、専門科目で学習する内容との関連性を意識させ指導していきたい。



【サンプルザ販売ボランティア】

1 実施科目名・単位数：課外・地域ボランティア活動

2 目的・ねらい

- ・経営ビジネス科生徒が地元の企業で職業体験をさせていただくことで、経営ビジネス科についての地域の方の理解を深めてもらう機会とする。
- ・挨拶やお客様への声掛けなど販売におけるビジネスマナーの基本について、現場での実践をとおして学ぶ。
- ・長年真庭高校生がお世話になったショッピングセンター・サンプルザに対し、感謝の気持ちを示す。

3 活動内容

(1) 実施日時

令和4年8月27日(土) 10:00~14:00

28日(日) 10:00~14:00

(2) 実施場所および指導者

協同組合落合ショッピングセンター・サンプルザ

担当者：伊藤写真館写瑠夢 伊藤 忠司氏、細井時計店 今石 泰助氏

(3) 対象生徒

経営ビジネス科1年生5名(希望者、男子2名、女子3名)

(4) 活動の概要

両店舗において担当者の指示に従い販売・営業補助に取り組んだ。

伊藤写真館には女子生徒3名が参加し、新店舗への案内やちらしの配布、撮影アシスタント業務に取り組んだ。細井時計店には男子生徒2名が参加し、接客、商品の整理、ポップ作成などに取り組んだ。いずれの店舗でも販売の基本である挨拶や言葉遣いなどを教わり、お客様と直接接する機会を与えていただいた。活動を通して販売現場の実際に触れる貴重な体験をすることができた。



4 生徒の感想・振り返り

- ・最初は緊張して接客がぎこちなくお客様を不安にさせてしまったが、少しずつ慣れ、自然に話ができるようになった。「頑張ってるね」と声をかけてもらいとてもうれしかった。話をするときには笑顔ではっきりと話すことと、頷きながら聞くことで相手の言いたいことを引き出すことができることに気づけた。
- ・接客やアシスタントの仕事に取り組んでみて、何をやるにも一人ではできないことに気づき、アシスタントの大切さがわかった。子どもの撮影は大変で、視線をカメラに向けてもらうのに苦労した。

5 成果と課題

ポートフォリオの記述からボランティアという立場ではあったが、店舗スタッフとしての意識が次第に芽生えていく様子が見られた。見知らぬお客様との対話に最初は戸惑いも見られたが、次第に慣れ楽しむ余裕も見られた。1～2日間の体験で参加生徒は販売・接客という仕事の大変さと魅力に触れることができたと思う。

【落合まちかど展覧会出展】

1 実施科目名・単位数：総合実習・3単位

2 目的・ねらい

- ・真庭市落合で開催されるこの企画に参加することで、生徒の作品や活動を紹介する。

3 活動内容

(1) 実施日時

令和4年9月25日(日)～10月2日(日)

(2) 実施場所

真庭高等学校食農生産科北圃場

(3) 対象生徒

食農生産科1年生 38名

(4) 活動の概要

真庭市落合地域を中心に地域活性化を目的として開催されており、今年で19回目を迎える。食農生産科北圃場のフェンスを展示場とし、本校のポスター掲示や、実習で生徒が作成した作品を展示することで本校のPRと地域行事に参加することで地域の活性化につながればと考え参加した。



4 生徒の感想・振り返り

- ・自分たちが作ったものを地域の方に見てもらえる良い機会になった。
- ・意外といろんな人が来ていたと感じた。

5 成果と課題

この活動では生徒は地域住民やこの展覧会を見に来たお客さんとの接点を設けられなかったため、生徒としてはこの活動に参加したという実感はほぼない。ただ、地域に見ていただいているという観点から、よりより作品や生産物を作ろうとする意欲は向上したのではないかと感じられた。単に展示をするだけではなく、生産物の販売実習を盛り込んで、地域住民との交流を深める場にしていきたい。

ウ 地域産業界外部講師活用

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

地域産業界外部講師活用〔ビジネス基礎〕



経営ビジネス科

製造業・小売業・
金融業など
8企業から講義

・人との関わり、コミュニケーション、特にあいさつがとても大切だと改めて知りました。
・自分のレア度を高めるために、色々な資格を取得しておこうと思いました。
・色々な情報を浅くても知っておくことが良いことがわかりました。
お客様の期待より上をいくように心がけているのがプロフェッショナルだなと感じました。
・行動を起こし、挑戦し、失敗から次に繋がるものを見つけようと思いました。

【「ビジネス基礎」地域企業出前講座】

1 実施科目名・単位数：ビジネス基礎・3単位

2 目的・ねらい

製造業、サービス業、小売業、卸売業、物流業、金融業、情報通信業について、地域のビジネスを取り巻く環境や流通と流通を支える活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

3 活動内容

(1) 実施日および講師

実施日	業種	会社名	講師
9月7日(水)	製造業	銘建工業株式会社	大越 健太郎氏
9月9日(金)	サービス業	一般社団法人コミュニティデザイン	池田 恭子氏
9月13日(火)	小売業①	真庭めぐりガーデン	三村 伸行氏
9月16日(金)	小売業②	スミダ商店	住田 明大氏
9月20日(火)	卸売業	真庭木材市売株式会社	井原 敬典氏
9月21日(水)	物流業	有限会社フクモトタクシー	福本 和来氏
9月28日(水)	金融業	中国銀行 落合支店	難波 秀男氏
9月30日(金)	情報通信業	西日本電信電話株式会社	萩原 辰夫氏

(2) 実施場所

岡山県立真庭高等学校落合校地 1-2 教室

(3) 対象生徒

経営ビジネス科1年生32名(男子23名、女子9名)

(4) 活動の概要

- ・会社(事業所)の概要：業種・業態，製品紹介などPRも可能。
- ・各業種の経済・流通における役割：種類や役割、ポイントなど。
- ・新たなビジネスの展開について：差別化や新業態など今後の展開や最新の情報について。

4 生徒の感想・振り返り

各事業もそれぞれの理念や目標をかかげていたり、客のニーズを考えたり SNS をうまく活用したりしていくことで事業拡大をしていっているとわかった。どれも最新の情報を取り入れていたり、事業をしていくうえでその先の未来を想像したりして、今後どう動いていくかが重要だと思った。また挑戦することで自分の腕も磨かれ、将来に役立てていけると思った。現状を冷静に判断し、把握し、その課題から最適な案を出し続けていくことが今大事だとわかった。将来に役立てる経験話や仕事する上で大事なことなどが聞けて良かった。

今回、様々な業種の方々の話を聞き、それぞれの業種ごとに強みや課題点があり、他の業種と支え合うことで全体がよりよくなっているんだろうと思った。これまで

SDGs という言葉はどこか他人事のように、頑張る人が頑張っていくものと思っていたこともあったけれど、実際にはどの業種、企業もそれぞれ取り組み方を真剣に考え、実行していることを知り、思ったより身近な話であり、自分たちも意識的に取り組んでいくことができたらいと感じた。それぞれができることに取り組んでいくことが SDGs の目的達成への一番の近道だと感じた。社会に出ていくときに心掛けるようにしたい。

5 成果と課題

今回の出前講座をとおして、生徒たちは地域のビジネスを取り巻く環境や流通と流通を支える活動の展開についてより多くを学ぶことができたと感じる。真庭の地域経済を支える各事業所からの講座によって、教科書だけでは学ぶことのできない地域のビジネスや取り組みを伝えることができた。また、各業種のビジネスだけでなく高校生へのメッセージも多く取り入れてくださり、様々な生き方や考え方を多くの生徒に伝えることができたと感じた。

講座の実施に当たっては交流定住センターの松尾敏正氏に「人つなぎ」をしていただいた。教員だけでは地域企業とのつながりが少なく、よりよい講座展開が困難であったが、松尾氏の協力により迅速かつ効果的に講座の準備をすることができた。反省点としては企業への打診と学校からの依頼文の発送にタイムラグがあったことにある。今後はタイムラグなく、連携が取れるようにする必要がある。

(4) IV環境・循環社会とバイオマス・SDGs学習

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL	
IV 環境・循環社会とバイオマス・SDGs学習	
目指す学習内容	R4年度の取組
銘建工業等での実習を踏まえた林業バイオマス学習	・バイオマスツアー【事前学習：森林講演会】 ・バイオマスツアーガイド育成開始
バイオ液肥の利用方法の研究・利用実践と普及活動	【予備研究に着手。R5課題研究等で実施】
カーボンニュートラル、環境負荷低減の取組と経営の学習	【R5講演会等を実施】
SDGsを題材とした探究学習	・真庭トライ&リポート (真庭あぐりガーデンより講演会) ・バイオマスツアーガイド育成開始

ア 林業バイオマス学習

バイオマスツアーは、真庭市が推進する「再生可能エネルギー」や、森林などの地域資源循環による「持続可能な暮らし」へのチャレンジを学ぶことのできるツアーで

ある。真庭市の取組みを体感するため、バイオマスツアーに参加した。



【1年生真庭市バイオマスツアー】

1 実施科目名・単位数：課外（学年行事）

2 目的・ねらい

真庭市バイオマス関連産業施設で現地の様子を見学したり体験したりすることにより、バイオマスに関する幅広い知識について触れ、地域理解を深める。

3 活動内容

(1) 実施日時

令和4年7月14日（木）14:35～15:25 【事前研修会】

令和4年7月15日（金）10:00～15:30

(2) 実施場所および講師・指導者

【事前研修会】：真庭高等学校落合校地 武道場

講師：真庭市産業観光部産業政策統括官 石井 裕隆氏

午前：津黒いきものふれあいの里

指導者：郷育魅力化コーディネーター 大岩 功氏（薪割り指導）

真庭市地域おこし協力隊 樋田 碧子氏（笹刈り指導）

津黒いきものふれあいの里館長 雪江 祥貴氏

（周囲散策取組説明）

午後：真庭バイオマス発電所・集積所

指導者：真庭バイオマス発電所・集積所のスタッフの方々

(3) 対象生徒

1年生 食農生産科 38名 経営ビジネス科 32名 看護科 13名

(4) 活動の概要

津黒いきものふれあいの里では、薪割り・笹刈り・周囲散策取組説明の3つの活動に取り組んだ。真庭バイオマス発電所では、発電の仕組みについて聞いただけでなく、燃やして残った灰の活用が今後の課題だと聞いた。集積所には、真庭市内だけでなく

市外からも間伐材などのバイオマス資源が届けられていることを知った。

4 生徒の感想・振り返り

- ・バイオマスということばを聞くことはこれまでもよくあったが、真庭市の豊かな森林資源を生かした真庭らしい取り組みだということがよく分かった。
- ・真庭市は田舎の印象しかなかったけど、国内外で有名な取り組みだと知り、誇りに思えるようになった。
- ・木を切り倒すことが自然破壊だと思っていたので、山全体が健康的に育つために周りの木を切り倒す間伐について知ることができて森林整備についての理解が深まった。

5 成果と課題

生徒は、真庭市の取り組みについて理解を深めただけでなく、SDGs についての理解も深めることができた。自分たちの生まれ育った真庭市に誇りを感じるような変容を見せる生徒も多く出ている。

今回のように、地域の取り組みと校内での学習活動とが結びつくような機会を意識的に続けていくことが課題であり、教員も真庭市という地域の取り組みについて理解を深めていくことが課題として挙げられる。

【生物生産科バイオマスツアー視察研修】

1 実施科目名・単位数：総合実習・3単位

2 目的・ねらい

真庭市が取り組む SDGs に関連する木質バイオマスの仕組みや再生可能な循環資源である木材を利用した CLT の製造を知ること、地域の産業と真庭市について理解を深める。

3 活動計画

(1) 実施日時

令和5年2月16日(木) 12:30~14:55

(2) 実施場所および指導者

実施場所：銘建工業株式会社 CLT 工場

真庭バイオマス発電所

指導者：大越 健太郎氏（産業実務家教員・銘建工業株式会社）

(3) 対象生徒

生物生産科2年生 19名

(4) 活動の概要

2月13日(月)に本校久世校地の会議室において「事前学習会」を行った。産業実務家教員の大越氏が CLT の製造や真庭市のバイオマス発電などの概要について講演された。また生徒は、事前に視察研修時に質問を寄せられるように考えた。当日は、CLT 工場では CLT の製造工程ラインを、バイオマス発電所で燃焼炉や操作室などを見学

し、担当者より詳しい説明を受けた。質疑応答の時間は、生徒が質問をした。

4 生徒の感想・振り返り

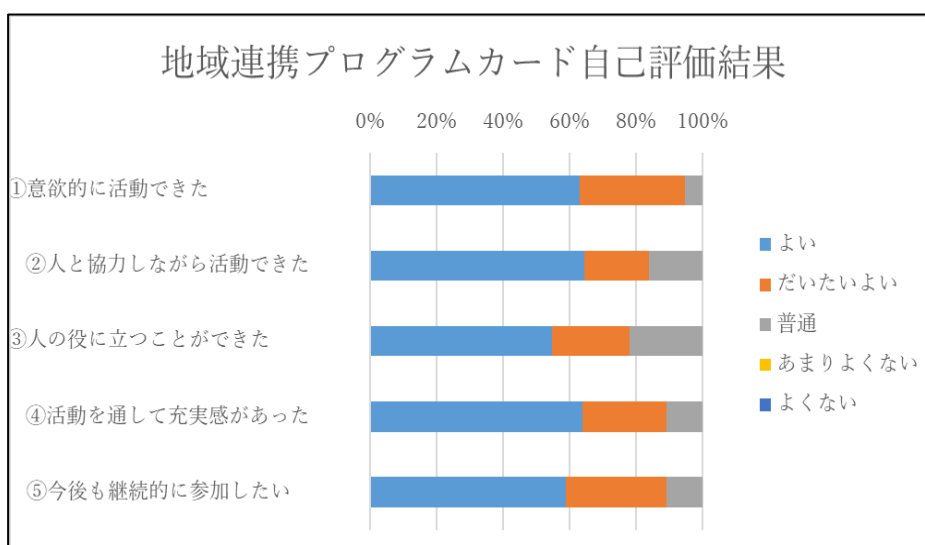
- CLT 製造で使用する接着剤について質問し、ホルムアルデヒドを一切使用していないことを知ることができた。
- ボイラーの中を見た時に火が勢いよく燃焼していた。温度が 800℃あると聞き、驚いた。
- CLT 製造では、木材を 3～5 層を重ねていることがわかり、強度が強そうだった。



5 成果と課題

生徒の自由記述と意識調査から成果検証を行った。活動を通し 90%の生徒が肯定的評価を行っており、自己肯定感の醸成に大きな効果があった。また、生徒の中には、来年度の科目「課題研究」で木質ペレットや CLT について取り組んでみたいとの発言もあった。

今後も真庭市、銘鋸工業、真庭バイオマス発電所等との連携を強化し、生徒が課題研究等で、自主的・意欲的にバイオマスや林産加工に関して学べる場を設ける。



イ SDGsを題材とした探究学習



【真庭トライ&レポート】

- 1 実施科目名・単位数：総合的な探究の時間・1単位
- 2 目的・ねらい

地域課題に対して、他者と協働しながら五感をとおした体験活動を積み重ねることにより、改善策・解決策について考え、解決に向けた行動を起こすことのできる力を育成する。



3 活動内容

(1) 実施日時等

毎週木曜日 5 限 (13:35~14:25) 課題解決型学習

○ 1 年生 83 名 (食農生産科 38 名、経営ビジネス科 32 科、看護科 13 名)

3 チャンネル全 20 班

MANIWA チャンネル：真庭市内のあらゆるジャンルが探究の対象。

こち防チャンネル：「こちら高校防災係」の略称。市内の防災について考える。

聞き書きチャンネル：聞き書きの活動を通して先人から学ぶ

1 年生一覧 (中間発表)

班	チャンネル	中間発表タイトル	連携先	人数
1	MANIWAチャンネル	食べものから食べられるものを通して	白梅公園(真庭スポーツ振興財団)	4
2	MANIWAチャンネル	キャンプに行き気づいたこと	蒜山塩釜キャンプ場	4
3	MANIWAチャンネル	真庭の自然を体験して	のどろキャンプ場	4
4	MANIWAチャンネル	Sすぐできる Dだれでもできる Gがんばれば sっす	余野キャンプ場	4
5	MANIWAチャンネル	S知らなかった世界へ D出かけて G学習する s生徒たち	もみじ公園キャンプ場	5
6	MANIWAチャンネル	S自然に触れながら D誰とも楽しく Gグループで協力して sスマイルに!	奥津湖、湯原湖	5
7	MANIWAチャンネル	竹林を整備して竹ぼうきを作ろう!	近隣小学校	4
8	MANIWAチャンネル	竹パウダーは野菜にどのように影響を与えるか	岡山県農林水産総合センター 森林研究所木材加工研究室	4
9	MANIWAチャンネル	竹の花壇作り	美作落合駅	4
10	MANIWAチャンネル	真庭を知り、もっと有名に!	真庭市役所子育て支援課	4
11	MANIWAチャンネル	真庭イベント!	真庭市役所落合振興局	4
12	MANIWAチャンネル	インスタを使って町おこし	真庭市役所子育て支援課	4
13	MANIWAチャンネル	規格外野菜を救おう!! ~ 私達の住んでいる真庭市での取り組み~	生活支援コーディネーター ふれあいいきいきサロン カット野菜の会	4
14	MANIWAチャンネル	はんざき祭りと地域の繋がり	湯原観光情報センター はんざき祭り実行委員会	4
15	MANIWAチャンネル	ちょっと気になる真庭事情か~真庭の高齢者の思い~	生活支援コーディネーター ふれあいいきいきサロン	4
16	こち防チャンネル	我が家の備えが地域の備え	十字屋めぐりガーデン、十字屋備蓄倉庫 真庭市消防署	5
17	こち防チャンネル	災害時の備え	市内コンビニエンスストア、真庭消防署	4
18	こち防チャンネル	消防士の台所	真庭消防署	4
19	聞き書きチャンネル	地域医療と介護	真庭市郷育魅力化コーディネーター 医療法人社団井口会 総合病院 落合病院 医療法人社団井口会 グループホーム青空	4
20	聞き書きチャンネル	地域農業とこれからの農業	真庭市郷育魅力化コーディネーター 妹尾農場 農業組合法人寄江原 道の駅「醍醐の里」	4

4【事例①】1年生 地域資源の活用班「真庭の自然を生かした農業開発」

(1) 実施場所および講師・指導者

- ・真庭高等学校落合校地南圃場
- ・注連山 作陽印刷工業株式会社 片岡 孝文氏
- ・真庭市内公共施設 真庭市役所落合振興局 森林研究所木材加工研究室

(2) 対象生徒 食農生産科1年生4名

(3) 活動の概要

＜真庭の自然を生かした農業開発 ～竹の利用価値を高める～＞

活動① 作陽印刷工業株式会社との連携

○注連山(しめやま)とは
真庭高校の裏山として落合地区の人々から大切にされてきた山。

○注連山に土地を持つ作陽印刷工業株式会社に話を伺う。
以前はイノシシなどの獣害に悩まされていた。
イノシシが居なくなっただけで、タケノコが伸びっぱなしとなり、無秩序に広がる竹林が形成された。



○竹害
・他の樹種の成長を阻害し生態系が単純化する。
・土壌保持率が低く土砂崩れが起きやすくなる。
・近隣の建物への浸食や倒れる危険性が発生する。



○竹を伐採
竹害拡大防止のために伐採させていただいた。



活動③ 岡山県森林研究所木材加工研究室との連携

○岡山県森林研究所木材加工研究室で竹パウダーを試作
竹パウダー作成を森林研究所に相談したところ、粉碎機を試作用に貸していただいた。



3mmと5mmの2種類を作成

○竹パウダーを使ってハツカダイコンを栽培
真庭市落合振興局が製造しているバイオ液肥をいただき、
①肥料無し ②液肥 ③3mm竹パウダー ④3mm竹パウダー・液肥
⑤5mm竹パウダー ⑥5mm竹パウダー・液肥を用意。



○結果は…

竹パウダー	液肥
・茎が太く丈夫に育った。 ・虫食いが少なかった。 ・5mmのほうが成長が良かった。	・根が丸く育った。

活動② 竹の特性を知る

○小物・流しそうめんづくり
切る、水につける、刻むなどをおこなった。



○竹の特性
・若い竹は水につけると曲がりやすい。
・乾燥した竹は堅く頑丈。
・乾燥した竹は鋸で切る際に、パウダーが発生する。



活動④ 中間発表会とフィードバック

○中間発表会
他の探究活動をしているグループと発表し合うことであらたな視点を獲得することができた。



○フィードバックを通して
「竹を資源として考えることができるようになった」という意見があった。今後は、市のSNSを使って魅力発信をおこなっているグループと協力するなどして、真庭市の資源・魅力としてどう発信していくか考えていきたい。

まとめ

今回の活動はSDGs17の目標のうち、11と15を達成するための取り組みといえる。




SDGs未来都市で生きる私たちだからこそ、他の市ではできない体験や気づくことのできない感覚に接し、新しい知識や発見をしていけると五感を通じて知ることができた。真庭という街から世界につながる取り組みを今後もおこなっていききたい。

学校の裏山の竹害を解決するために竹を伐採し、竹材を用いて加工品を製作した。

その中で竹パウダーに関心を抱き、農業利用への可能性を模索した。岡山県森林研究所木材加工研究室で竹パウダーを試作し、土に竹パウダーを混ぜ肥料としハツカダイコンを栽培し、成長への影響を調査した。

岡山県高校生探究フォーラム 2022 に参加し、発表と参加者との対話をとおして自分たちの住む真庭市の強みと課題を知った。

(4) 生徒の感想・振り返り

- ・自分たちが住む真庭市のことについて知ることができた。
- ・竹を刈って加工するという、普段の授業では味わえない体験をすることができた。
- ・竹パウダーの魅力を伝える方法を模索したい。

5 成果と課題

文字資料に頼らず、見て聞いて触れて習得する知識や経験は生徒たちにとって有意義なものとなった。地域全体が学び場となり、真庭市への郷土愛が育まれるとともに魅力の再発見・新発見につながった。一方で、郷土の課題も浮き彫りになり、町の未来を考えるきっかけにもなった。今後は、真庭トライ&リポートでの学びを授業や自身の進路につなげる指導をしていきたい。

(5) V異校種や地域住民等と連携した地域貢献活動

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL	
V 異校種や地域住民等と連携した地域貢献活動	
目指す学習内容	R4年度の取組
校種を超えた交流学习や体験学習の支援	・地域住民会との農業交流 ・久世こども園との植栽交流
地域への農業技術普及や販売学習	・ふれあい市、野菜苗販売 ・シクラメン販売 ・地域への農産物販売実習
地域住民との対話による課題発見と課題解決の協働	・真庭トライ&リポート(聞き書き等) ・地域合同防災訓練
提案による社会教育の場づくりや市が行う取組への積極的な参加	・市長と話そう ・真庭消防署との意見交換 ・ひとづくり・まちづくりフォーラム ・市議会議員との意見交換 ・真庭市SDGs円卓会議

ア 校種を超えた交流学習や体験学習支援

食農生産科、生物生産科では農業学科の特性を活かし、地域住民会との農業交流やこども園との植栽交流を実施した。生徒は異年齢の方とのコミュニケーションを学ぶとともに、自己有用感を味わうことができた。



【真庭市鹿田地域との食育交流会】

- 1 実施科目名・単位数：総合実習・3単位
- 2 目的・ねらい
 - ・サツマイモ、ラッカセイを栽培することで、栽培技術が身につく、収穫したものを活用することで食育活動を普及できる力を身につけることができる。
 - ・地域に対する理解が深まりと関心が高くなる。
 - ・コミュニケーション能力を身につけることができる。
- 3 活動内容
 - (1) 実施日時
 - 令和4年6月4日(土) 9:00~11:00・・・サツマイモ植え付け、ラッカセイ播種
 - 令和4年10月15日(土) 9:00~11:00・・・サツマイモ収穫
 - 令和4年11月19日(土) 9:00~11:30・・・ラッカセイ収穫、焼き芋作り
 - (2) 実施場所および指導者
 - 真庭市鹿田地区(道の駅醍醐の里横圃場)
 - 指導者：永田 貴久教諭
 - (3) 対象生徒
 - 食農生産科科1年生有志者(6月：3名、10月：2名、11月：3名)
 - 真庭市鹿田地域住民会、鹿田地域在住子ども園、小学生(毎回、15組程度の参加)
 - (4) 活動の概要
 - 真庭市鹿田地区では、高齢化に伴い農業離れも進み、その結果耕作放棄地化が進

んでいる。今回使用した圃場もその一つであり、鹿田地域住民会より、圃場の活用と高校とのコラボレーションができないかとの声から、農業を活かした活用と地域住民を巻き込んだ活動をと考え、この活動を行った。低年齢層に焦点をあて、学校だけではなく地域住民、参加した保護者の協力を得ながら実施した。幸いにも雨天ではなかったため全3回を無事に終えることができたが、雨天時での対応をどうするか、有志生徒少数であったため、生徒への活動への参加をいかにすすめるか等の課題が浮き彫りとなった。突発的なものであったが、次年度以降はスケジュールを地域とも連携・共有する必要があると感じた。



4 生徒の感想・振り返り

- ・今回の活動では、農業自体学び始めたばかりで、それをどのように参加者に教えていけば良いのかわからなくて、先生任せになってしまった。子ども達と一緒に活動するのは、毎回楽しかった。
- ・準備が十分でなくて、参加したいときに部活動があったりしてどっちに行くか迷った。先生任せではなく、自分たちももっと意見を言ってこの活動ができるようにしたい。
- ・最初はなかなか子ども達となじめず、話しかけられなかったが、時間が経つにつれ、子ども達や保護者の方とコミュニケーションがとれるようになり、良い経験ができた。

5 成果と課題

参加した生徒は有志者のため、積極的に参加しようとするもののなかなかコミュニケーションがとれず、教員側から指示をしないと動けない状態があった。事前指導も行ったが、1年生には困難な部分が多々あったように感じた。また、地域、生徒、学校それぞれのスケジュールが合致しにくいこともあり、スケジュールの明確化や、早期の段取りが必要であると感じた。

参加した生徒は徐々に緊張もほぐれ楽しく会に参加できていたと思う。今年度は教員主体で実施したが、打合せの段階から、生徒を交え意見交換しながら、生徒主体で会の進行を企画・検討できるようにしていきたい。

【真庭市鹿田地域との植栽交流会】

1 実施科目名・単位数：総合実習・3単位

2 目的・ねらい

真庭市鹿田地区では住民の高齢化に伴い、農業離れが進み、耕作放棄地が増えつつある。この状況を止めるべく地域の景観保全と耕作放棄地の整備活動及び、地域貢献活動の一環として植栽交流会を実施した。地域住民との交流を深め、郷土愛の育成につなげていくことを目的とした。なお、この植栽交流で使用した植物は生徒が播種から生産したものを使用し、生産物の活用法を考えさせ、植栽のデザインも生徒に考えさせた。

3 活動内容

(1) 実施日時

令和4年11月16日（水） 13:30～15:30

(2) 実施場所および指導者

真庭市鹿田地区

指導者：食農生産科教員

(3) 対象生徒

食農生産科1年生

(4) 活動の概要

真庭市鹿田地区では、高齢化に伴い農業者離れも進み、その結果耕作放棄地化が進んでいる。今回使用した圃場もその一つである。昨年度までは岡山県南の高校とコラボして植栽交流をしていたが、本校が比較的近くになったため、本科に声がかかった。生徒に昨年度までの概要を説明し、今年度の交流の実施に至った。鹿田地域からはチューリップの球根を同時に植えてきたので今年度も同様にチューリップを交えたデザインを考えさせた。本科からはビオラとハボタンを用意し、現地で地域住民会と合流し植栽活動を行った。この活動は地元ケーブルテレビにも取材され、本科の活動を発信することができた。花は4月下旬まで楽しむことができ、地域活性化につながったと感じた。



4 生徒の感想・振り返り

・今回の活動では、植える量が多くて大変だったが、自分たちでデザインしたものが

多くの人に見てもらえると良いと思った。

- ・デザインどおりにできるかわからなかったが、最終的にきれいに仕上がったのでよかった。多くの人に見てもらえたらと思った。

5 成果と課題

計画、デザインなど、生徒が関わる面を多く取り入れたこともあり、生徒の感想は肯定的なものが多かった。ただ、植える量を考慮して時間の計算をしたつもりではあったが、スムーズに行かず、時間が長くなってしまったことは改善の必要があると思った。また、現地で初めて生徒が地域の方と対面するため、交流よりも植えることがメインになってしまったことから、この会を実施する前に地域住民会の方から生徒に説明をしてもらい、または本科の代表者数名が現地に行って、それを参加する生徒に情報共有させ、教員と地域住民会が主体で企画を動かすのではなく、生徒主体で企画を進めさせても良いと感じた。それにより、より地域に密着した成果を上げることができたのではないかと感じた。

【地域合同防災訓練】

1 実施科目名・単位数：学校行事

2 目的・ねらい

訓練を通じて、生徒及び教職員の防災意識を高めるとともに、災害時に高校生にできること、本校にできることを認識し、迅速かつ安全に行動できる能力と判断力を身につける。

3 活動内容

(1) 実施日時

令和4年11月15日（火）13:15～15:45

(2) 実施場所および指導者

真庭高等学校落合校地

(3) 対象生徒

本校生徒及び職員

参加者 落合小学校4～6年生、落合垂水向津矢地域住民会、真庭市落合振興局、真庭消防署、自衛隊岡山地方協力

(4) 活動の概要

11月15日に真庭高等学校にて地域合同防災訓練を実施した。この取り組みは高校生が地域の方や近隣小学校、消防署、自衛隊等と連携して防災訓練を行い、地域の防災力の強化と防災意識の高揚を目的に毎年行っているものである。

訓練内容としては、南海トラフを震源とする震度5強の地震が発生したと想定して、火災発生に対する避難訓練、近隣小学生の活動補助、各種防災体験を行った。生徒は小学生担当班、防災班、消火班、救護班、人命救助システム班、避難所設営班、

情報収集班、防災活動体験班の9つの班に分かれ、消防士指導の下で起震車体験、屋内消火栓と消火器を用いた消火訓練、自衛隊員の指導による毛布を使った担架体験やロープワーク体験や、被災地で活躍する機器類の体験、ハイゼックス調理法を活用した非常時の食事として炊爨活動などに取り組んだ。小学生担当班については、近隣小学校5、6年生を本校まで案内し、防災体験活動に参加してもらった。高校生も上手く小学生の体験をサポートすることができていた。




4 成果と課題

生徒が被災現場を想定し、とるべき行動について考える機会となった。コロナ禍で従来の形で研修会を実施することはできなかったが、事前に班別のリーダー研修会を開いたことで、生徒が参加者の立場だけではなく、他の参加者に説明する立場として主体的に行事に参加する様子が見られた。事前の研修会にはこの活動をスタートしたときの卒業生が講師として参加し、継続がもたらす効果を感じた。また、班編制とすることで、生徒がチームとして互いに助け合う協働のスタイルができていた。生徒の活動の振り返りの中で、日頃の防災意識を高める必要性や地域の方との交流、小学生とのやりとりにやりがいを感じる感想が述べられており、防災への意識や地域の中で高校生が果たすべき役割について考える機会となった。


一方で活動に対する生徒の意識に差が見られ、活動の意義や自己有用感を感じられるところまで指導ができたかが課題として残る。今後、事前指導のあり方や班編制について検討する必要がある。また外部と連携することにより教員負担は大きくなり、特に中心となる担当者の負担はきわめて大きく、組織運営体制を検討する必要がある。

イ 地域への販売学習

久世校地では、年5回程度の販売実習を行い、地域の皆さんとの交流をとおして自己肯定感や達成感を高めることができている。生徒は地域貢献活動として捉えており、90%以上の生徒が行事を肯定的に捉えることができた。

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL


地域への販売学習



生物生産科


ふれあい市

- ・たくさんお客さんが来られて、**楽しかった。**
- ・**パンがおいしい**とたくさんの方から言ってもらえて**うれしかった。**
- ・地域の方々がたくさん来られて、自分の**学校の食品が愛されている**と思った。
- ・商品がほとんど売れて、**達成感があった。**



野菜苗販売

- ・今回の実習ではお客様に「**ありがとう**」と言ってもらって**うれしかった。**
- ・お客様への声かけが難しく、**コミュニケーション力**が不十分だということがわかった。
- ・今後も**地域と交流する行事に積極的に参加したい。**



ふれあい市

食品科学科

【ふれあい市】

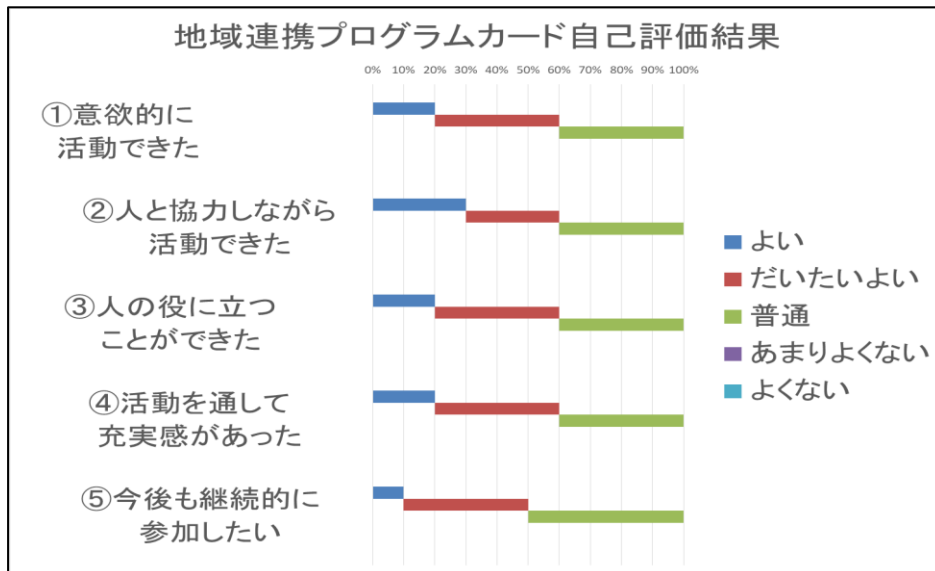
- 1 実施科目名・単位数：総合実習・4単位
- 2 目的・ねらい
 - ・学習の成果を示す。
 - ・地域に対する理解が深まりと関心が高くなる。
 - ・コミュニケーション能力が向上する。
- 3 活動計画
 - (1) 実施日時
令和4年4月22日（金） 9:30～10:30
 - (2) 実施場所
真庭高等学校久世校地 農場
 - (3) 対象生徒
生物生産科3年生草花専攻生 14名
 - (4) 活動の概要
自分たちで栽培した草花苗・寄せ植えを地域の方々に販売する実習を行う。受付、接客、配達と役割分担を行う。受付では花の数量の確認や花の紹介を行う。配達では、多くの苗を車まで一緒に運ぶ。

4 生徒の感想・振り返り

- ・自分たちが今まで育てた花を買ってくれて嬉しかった。お客さんの笑顔が見られてよかった。
- ・お客様に満足していただけるよう丁寧な対応を心掛けた。やりがいを感じられた。

5 成果と課題

生徒の自由記述と意識調査から成果検証を行った。販売活動を通し 50%程度の生徒が肯定的評価を行っており、事前学習による知識の定着をより行い、自信を持って活動できるようにしたい。またコミュニケーションに課題を持つ生徒もおり、販売実習など地域の方と接する機会を繰り返し経験することで身につけていくと思われる。今後、より自身の進路・関心とリンクしていくよう、専門科目で学習する内容との関連性を意識させ指導していきたい。



【ふれあい市(加工品販売)】

- 1 実施科目名・単位数：総合実習・4単位
- 2 目的・ねらい
 - ・学習の成果を示す。
 - ・地域に対する理解が深まりと関心が高くなる。
 - ・コミュニケーション能力が向上する。
- 3 活動計画
 - (1) 実施日時
令和4年4月22日(金) 9:30~11:35
 - (2) 実施場所
真庭高等学校久世校地 農場
 - (3) 対象生徒
食品科学科3年生 18名

(4) 活動の概要

自分たちで製造した加工品を地域の方々に販売する実習を行う。受付、接客、販売と役割分担を行う。受付ではコロナ対策として名前・電話番号を記入してもらう。買い物かごの受け渡し、商品の陳列、袋詰め、会計を分担して行った。

4 生徒の感想・振り返り

- ・たくさんお客さんが来られて、楽しかった。
- ・パンがおいしいとたくさんの方から言ってもらえてうれしかった。
- ・地域の方々がたくさん来られて、自分の学校の食品が愛されていると思った。
- ・商品がほとんど売れて、達成感があった。

5 成果と課題

生徒の自由記述と意識調査から成果検証を行った。活動を通し90%以上程度の生徒が肯定的評価を行っており自己肯定感の醸成に大きな効果があった。またコミュニケーションに課題を持つ生徒もおり、販売実習など地域の方と接する機会を繰り返し経験することで身についていくと思われる。今後、より自身の進路・関心とリンクしていくよう、専門科目で学習する内容との関連性を意識させ指導していきたい。

【ふれあい市(野菜苗販売)】

1 実施科目名・単位数：総合実習・4単位

2 目的・ねらい

- ・学習の成果を示す。
- ・地域に対する理解が深まりと関心が高くなる。
- ・コミュニケーション能力が向上する。

3 活動計画

(1) 実施日時

令和4年4月22日(金) 9:30~11:35

(2) 実施場所

真庭高等学校久世校地 農場

(3) 対象生徒

生物生産科2年生22名

(4) 活動の概要

自分たちで栽培した野菜苗を地域の方々に販売する実習を行う。受付、接客、配達と役割分担を行う。受付では注文用紙の記入や苗の紹介を行う。接客は、注文のあった苗の種類や数量を複数人で協力し受け渡す。配達では、苗を車まで一緒に運ぶ。

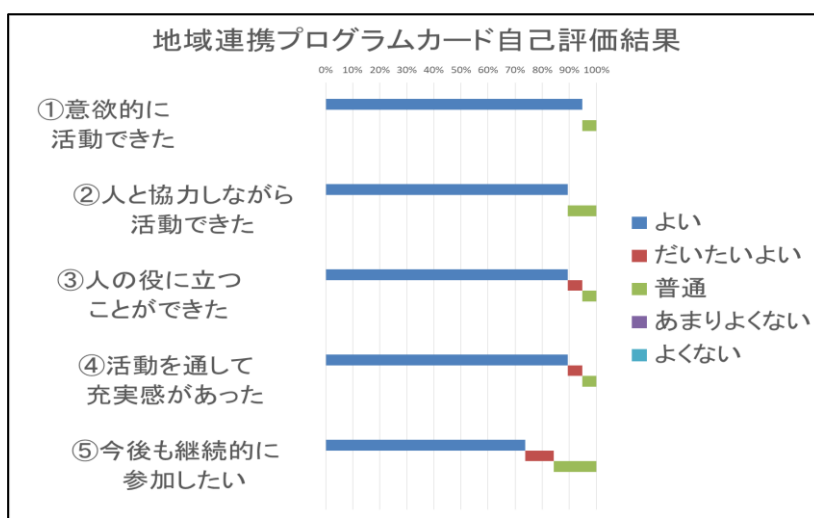
4 生徒の感想・振り返り

- ・今回の実習ではお客様に「ありがとう」と言ってもらってうれしかった。
- ・お客様への声かけが難しく、コミュニケーション力が不十分だということがわかった。

・今後も地域と交流する行事に積極的に参加したい。

5 成果と課題

生徒の自由記述と意識調査から成果検証を行った。活動を通し 90%程度の生徒が肯定的評価を行っており自己肯定感の醸成に大きな効果があった。またコミュニケーションに課題を持つ生徒もおり、販売実習など地域の方と接する機会を繰り返し経験することで身についていくと思われる。今後、より自身の進路・関心とリンクしていくよう、専門科目で学習する内容との関連性を意識させ指導していきたい。



【シクラメン販売(真庭市役所)】

1 実施科目名・単位数：総合実習・4単位

2 目的・ねらい

- ・学習の成果を示す。
- ・地域に対する理解が深まり、関心が高くなる。
- ・コミュニケーション能力が向上する。

3 活動計画

(1) 実施日時

令和4年12月12日(月) 10:30~12:00

(2) 実施場所

真庭市役所

(3) 対象生徒

生物生産科2年生草花専攻生9名

(4) 活動の概要

自分たちで栽培したシクラメンを地域の方々に販売する実習を行う。会計、接客、配達と役割分担を行う。会計では花の数量や金額の確認を行う。接客では花の紹介やお客様の質問対応を行う。配達では、多くの苗を車まで一緒に運ぶ。

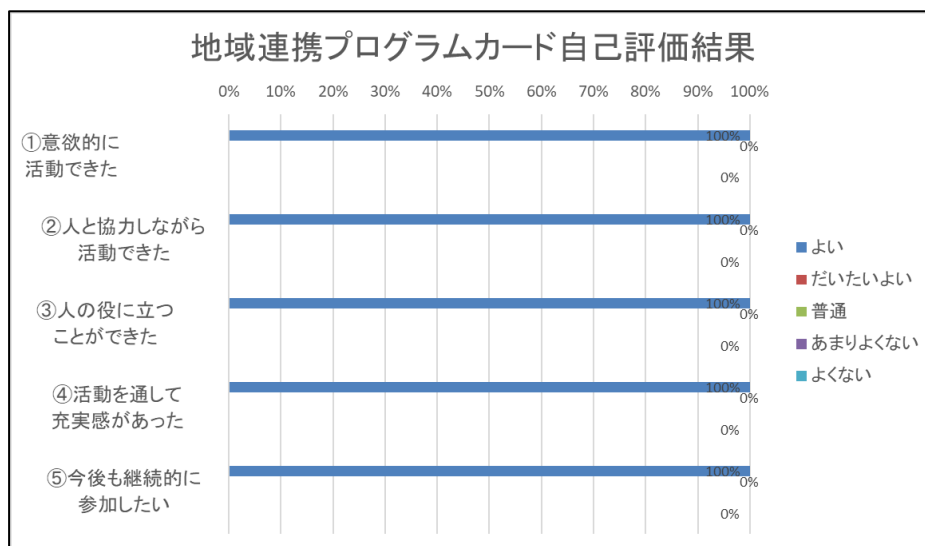


4 生徒の感想・振り返り

- ・たくさんのお客さんが来てくれてよかった。
- ・シクラメンが完売できてうれしかった。
- ・接客対応をもう少しできるようになりたい。

5 成果と課題

生徒の自由記述と意識調査から成果検証を行った。活動をとおしすべての生徒が肯定的評価を行っており自己肯定感の醸成に大きな効果があった。生徒自身の実習内容が地域の方々に役立っていることが実感できたように感じる。体験実習を重ねるごとに次回への課題を感じ、改善しようとする振り返りの様子も見られた。今後、より自身の進路・関心とリンクしていくよう、専門科目で学習する内容との関連性を意識させ指導していきたい。



【校内販売実習】

1 実施科目名・単位数：総合実習・3単位

2 目的・ねらい

- ・校内での生産物を販売実習することで、生産物の流通について学習した。また、この実習をとおして地域の方との交流を図るとともに、地域に本校の学習活動の一環を発信することもあわせて実施した。
- ・販売実習をとおして、コミュニケーション能力を身につけることができる。

3 活動内容

(1) 実施日時

令和4年12月16日（金曜日） 10:00～12:50

(2) 実施場所

真庭高等学校北園場内

(3) 対象生徒

食農生産科1年生

(4) 活動の概要

本科がスタートして生産物はできていたものの、少量しか収穫できていない状況にあり、販売実習の体験も数名の生徒しかできていない現状にあった。生産物がある程度まとまって収穫でき始めたので、地域に向け販売実習を実施することにした。また、販売実習の経験が少ない生徒にも接客やコミュニケーション力を得る機会として設定した。報道機関に実習の宣伝と取材を依頼した結果、当日は平日にもかかわらず多くの方が来場された。不慣れなこともあったが、積極的に接客をする様子が見てとれた。



4 生徒の感想・振り返り

- ・初めての接客で言葉遣いとかが難しく、うまくできなかったが、お客さんに優しく接してもらえてから、動けるようになった。
- ・お金を扱うのが緊張した。電卓で計算ではなく、タブレットを使用してレジのように操作できたので、ミスはほぼなかったと思う。
- ・生産物が売れたことがうれしかった。実習の時に持って帰ったりしたことはあったけど、人に売ることがなかったので、人に喜ばれるのはうれしかった。

5 成果と課題

初めての販売実習をする生徒が大半で、積極的に接客に行こうとする者もいれば、拒んでいる生徒もあり、今後の販売実習の指導の重要性を改めて感じた。途中から、購入物を車まで運んだり、レジ打ちのみに専念させたりと、個々の生徒に応じた接客対応にすることで接客への拒否感は薄れていった。無理強いをすれば拒否感しか残らないため、この面に関しては徐々に改善していけるよう教員側だけで考えるのではなく、生徒に振り返りを繰り返し行わせることで、積極的な接客ができるようになればと考えている。実習のスケジュールを考えることもあるが、生徒が主体的に企画やチラシ、ポップの作成ができるように授業展開していきたい。

【普門寺もったいないマーケット販売実習】

1 実施科目名・単位数：総合実習・3単位

2 目的・ねらい

主催者である「地域支援さとてらす」より、SDGs 活動の一環として普門寺及び周辺を会場にして行うフリーマーケットの運営および販売の補助の依頼を受け、有志生徒で実施した。本科では生産物の販売をメインに参加した。この活動により、販売やイベントの運営について体験でき、今後の地域との活動について考える力を習得することを目的として実施した。

3 活動内容

(1) 実施日時

令和4年11月13日（水） 9:00～16:00

(2) 実施場所および指導者

花の山寺 普門寺

主催：地域支援 さとてらす（代表 和田 ひろみ氏）

(3) 対象生徒

食農生産科1年生有志生徒（2名）

(4) 活動の概要

花の山寺普門寺ではその名のとおり花で囲まれた寺であり、春と秋に咲くサクラ、夏にはアジサイと彩りに富んだ地域にある。山の上でもあることと高齢化が進む中で地域活性化をねらい、イベントを地域支援さとてらすが主催で行っている。

この企画もさとてらすから最初は販売の応援ボランティアとして参加できないかということだったが、生産物の販売体験や接客に関する体験をさせたいと考え、販売実習に切りかえて、参加した。有志生徒2名での参加ではあったが、自分たちで栽培した植物の説明をそれぞれで考え説明し、販売を行った。本科のPRも兼ねた地域活性化につながる活動を行った。



4 生徒の感想・振り返り

- ・自分たちで栽培したものが売れていくのはうれしかった。商品の説明をするのが難しかったが、接客を重ねる内にできるようになっていったと思う。お金の受け渡

し方や接客に使う言葉遣いがわかった。

- ・どうやったら売れるのか考えながら、販売した。お金を受け取るのに間違わないようにしなければと思って緊張した。

5 成果と課題

有志生徒によるものであったため、2名しか参加者はいなかったが、事前に接客についてマナーや言葉遣いを指導していたため、比較的スムーズな販売体験をできたと思う。時には言葉遣いやお金の受け取り方、渡し方について指導を行ったが、リアルな接客をするため、緊張感があった中での実習であり販売技術や接客時におけるコミュニケーション能力の向上につなげることができた。この技術が定着するよう、定期的に販売実習を取り入れていきたいと感じた。また、その他の生徒もできるように授業内でも取り入れていくべきと感じた。

ウ 市が行う取組みへの積極的な参加

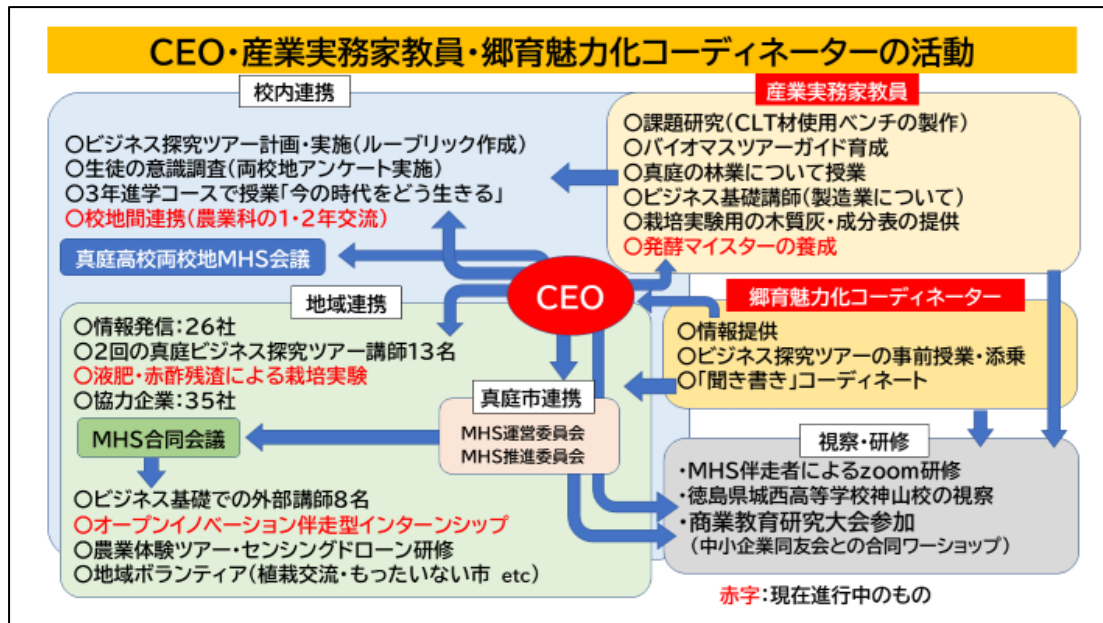
真庭市が実施する行事にも積極的に参加している。真庭市は、高校生の意見をしっかり受け止めてくださるので、生徒の地域参画意識も向上している。これからも真庭市の行事に参加し、高校生が意見を提案し、地域を盛り上げて行きたい。



ここまで紹介した活動は、真庭型産業人材育成プログラムの専門教科の学びにしっかりと活かしている。新設学科のため、年次進行の学習展開を検討し、効果的な学びとなるよう順次ブラッシュアップしていく計画である。

5 CEO・産業実務家教員の動き

CEOと産業実務家教員は、本事業の中心的な役割を担い、真庭市の郷育魅力化コーディネーターと連携し事業全体の運営に当たっている。さらに、地域とも密接につながりながら様々なアイデアを事業化し、産業人材育成プログラム実現に向けて活動している。




また、郷育魅力化コーディネーターは、真庭市に在籍し、事業推進委員会のメンバーとして協力をいただくとともに、事業で実施する「聞き書き」や「ビジネス探究ツアー」等で、より地域と密接に連携した学習展開をコーディネートしていただいた。


OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

産業実務家教員との連携

**課題研究
(CLT使用ベンチの制作)**



**ビジネス基礎
しごと研究講座**



- 課題研究(CLT材使用ベンチの製作)
- バイオマスツアーガイド育成
- 真庭の林業について授業
- ビジネス基礎講師(製造業について)
- 栽培実験用の木質灰・成分表の提供
- 発酵マイスターの養成(計画中)

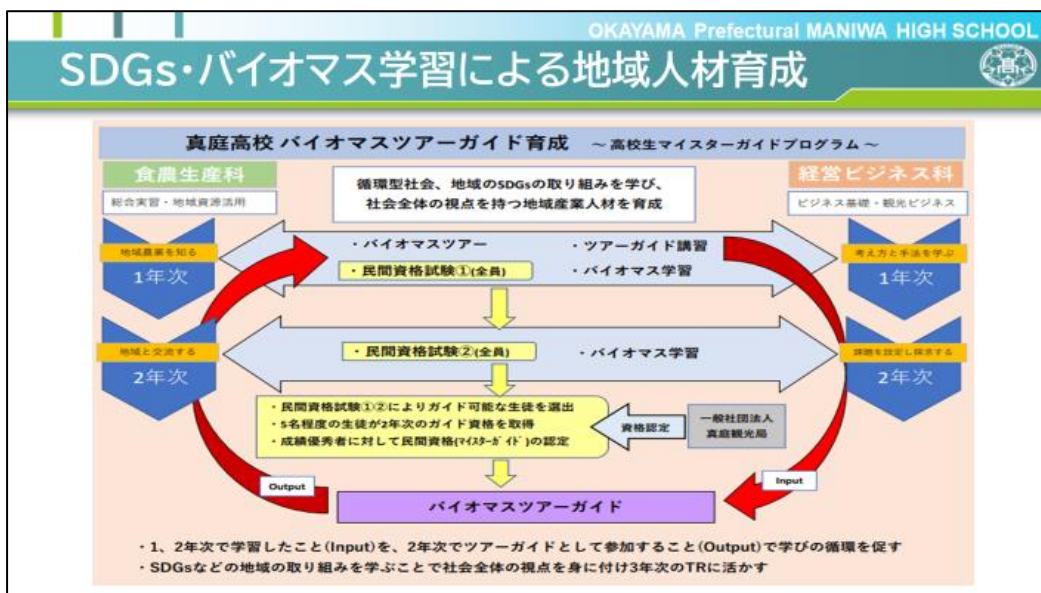
**真庭の森林学習授業
⇒兵庫県立森林大学視察研修(12月上旬)**

真庭高校は、産業実務家教員と連携して真庭高校の魅力アップを図っている。課題研究では、銘建工業の製品である CLT を使用したベンチの製作に取り組んだ。また、銘建工業での経験を活かして SDG s やバイオマスをはじめ、キャリア教育講座も担当している。

産業実務家教員との連携で最大の魅力は、真庭市のバイオマスや SDGs への取組を

体験的に伝えていただけることである。さらに、真庭市を知り、循環型社会、地域のSDGsの取組みを学び、社会全体の視点を持つ地域産業人材を育成するために、次に示す「バイオマスツアーガイド育成」の提案をいただき、2学期から授業に取り入れている。

このプログラムは真庭市や地域企業が行っている環境・循環型社会への取り組みを



より深く理解していくために、1～2年次にSDGsにおける真庭市の取り組みや地域企業の仕事を現地で学び、人との出会いや生き様に感動することを大切にし、3年次においてより広い視野で環境や社会に対する考察力を身に付けようとするものである。さらに、バイオマスツアーガイドとしての資格取得を目指し、その経験・知識を後輩に伝えることで学びを循環させる。

バイオマスツアーガイド育成は、産業実務家教員が真庭観光局と連携して計画したものであり、令和5年度から年2回の資格試験を実施し、令和6年度から本格的に運用をはじめめる計画である。

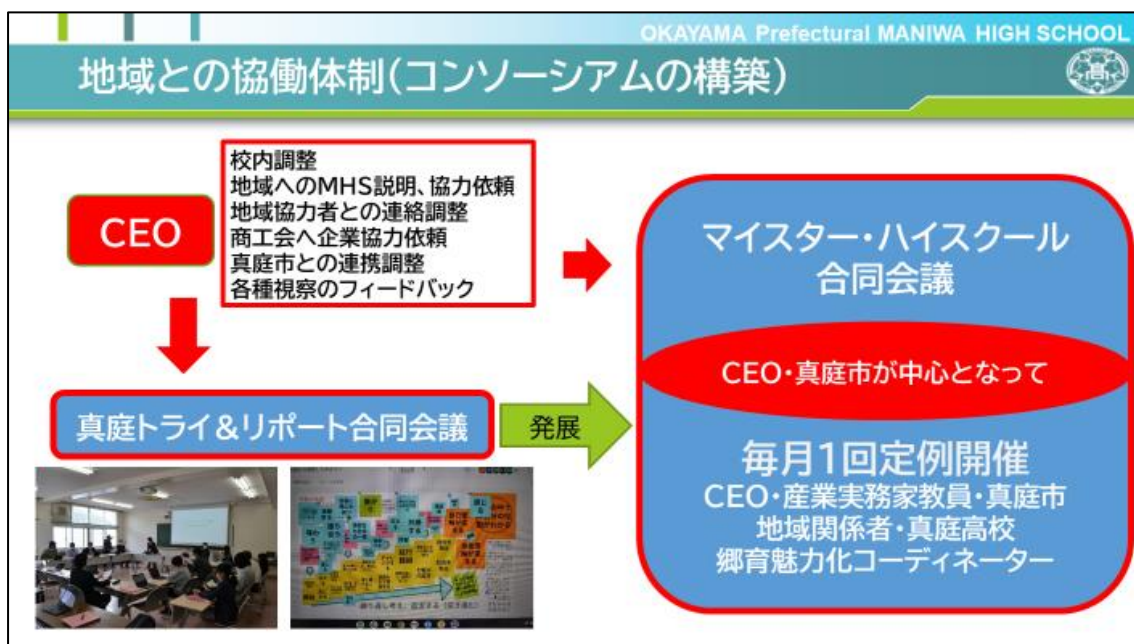
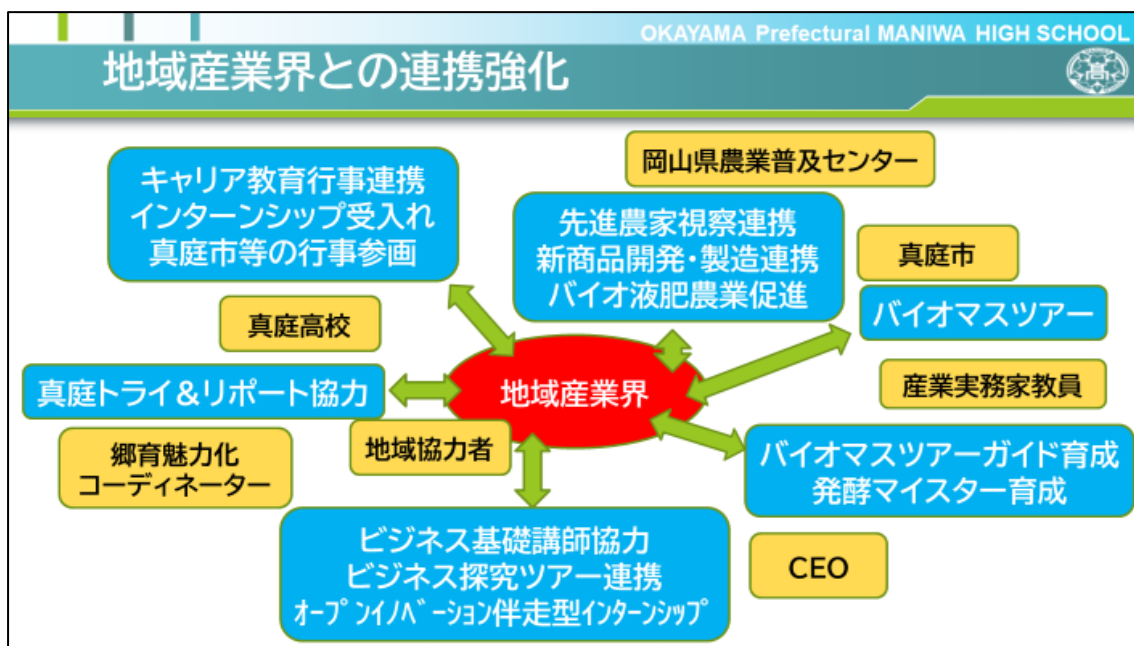
また、CEOと産業実務家教員が連携して、地元の酒・酢・味噌などの発酵文化に着目した「発酵マイスター養成プログラム」を検討中である。

6 地域との協働体制

令和3年度では、地域産業界との連携強化が課題となっていたが、令和4年度は様々な連携活動を実施できた。これは、多くの協力者に地域産業界との橋渡しをしていただくことで実現できている。

さらに、地域との協働を図るために「マイスター・ハイスクール合同会議」を立ち上げた。会議参加者はCEO、産業実務家教員、真庭市、地域関係者、郷育魅力化コーディネーター、真庭高校である。CEO、真庭市が中心となって運営し、6月から毎月1回の定例会議を開催している。会議では、高校の魅力化や地域連携等の情報共有や

アイデア交換を行うとともに、令和6年度以降の自走段階をも想定した内容となり、事業の推進力となっている。



さらに、真庭市は高校魅力化を支援するため、教育魅力化プロジェクトチームを組織し、アクションプランを策定している。高校だけでは困難な取り組みをしっかりとバックアップする体制が整えられている。さらに、真庭市教育委員会が窓口となって、農業振興課や真庭観光局などとの連携が容易になるように動いており、大変心強い支援をいただくことができている。

真庭市の高校魅力化支援体制



- 「中間支援組織の立ち上げ支援事業」
教育魅力化を伴走支援する中間支援組織を立ち上げ、事業の継続性を担保する。
- 「高校魅力化応援事業」(市民参画推進ワークショップ事業)
高校や地域を交えたワークショップを定期的に行う。現場のニーズを知り、お互いを知り、地域ぐるみで高校を支えていく機運を高める。
- 「高校魅力化発信事業」
高校の姿を速く広く広報するために、SNS・動画で高校の活動状況を発信する。
- 「高校と市内小中学校との連携強化」
- 「バイオマス普及啓発」
- 「キャリア教育事業」

真庭市の教育魅力化プロジェクト
チームアクションプランより抜粋

7 委員会等実施報告

(1) 第1回マイスター・ハイスクール運営委員会

ア 日時：令和4年8月29日(月) 19:00～22:00

イ 会場：真庭市役所本庁舎 3階会議室

ウ 議事等

(ア) マイスター・ハイスクール事業進捗について

(イ) 真庭市の教育魅力化事業について

エ 議事概要(意見抜粋)

- 現状、努力はしているが、やっていることが外に出ていない。動かなければ、世間にも子供たちにも伝わらなければ意味がない。
- 子供たちがワクワクするような学校であって欲しい。生徒にとっては自分の人生にとって良かった、親にとっては人生を生きていくことに子供が自信を持つようになった、そう思ってもらえる学校になって欲しい。
- 合同会議の実績、特徴的な話とキャリアパスポートの作成は学校現場でこれからも続くのか知りたい。
⇒最近の議題となって実現したものが「ビジネス探究ツアー」である。キャリアパスポートについては随時体験したモノ・コトを記入し、学習の積み重ねを見える化しており、今後も継続実施し進路選択に結びつける。
- 「ビジネス探究ツアー」についてはプロセスも含めケーブルテレビに協力してもらって番組・映像にして見てはどうか。
- 真庭高校は、職業高校になったのだから出口が見えるような情報を伝えていく

べきではないか。新しい真庭高校を選んできた子供にはやりたいことや夢があるのではないか。ビジネス探究ツアーなどは良い学習材料となるのでは。ただ、次の展開があるのかが疑問。感想では実践をやってみたいという声もあるが、体験や実践を望む声をどう拾うのか。

⇒合同会議でも議題に上がっている。まず、知ることから始まり、知った上で2年次に商品開発、3年時に観光ビジネスに繋がっていく。

○マイスター・ハイスクール事業が本当に機能すれば、生徒を揺さぶるところから始まり、協力体制を構築できると感じているし、教科や進路との往還ができると感じた。その体制づくりが大切なのだと改めて感じた。

(2) 第2回マイスター・ハイスクール運営委員会

ア 日時：令和4年11月2日（水）18:00～21:30

イ 会場：真庭市役所本庁舎 3階会議室

ウ 議事等

(ア) マイスター・ハイスクール事業進捗について

(中間成果報告会での資料を基に)

エ 議事概要（意見抜粋）

○校外学習の意味、何のためにやっているかを生徒が理解しているか。学校内の学習にどのように結びついているか。

○中学3年生が見てどのように感じるのか。

○地域の販売学習では、ジャム・コッペパンなどをJA販売所で行っている。製造から出荷納品まで行っている。自分たちの作ったものがどう評価されるか興味を持って行っている。

○商工会の会員にも知らない会員がいるのでPRしたい。高齢化で跡継ぎがない事業所もあるので高校生の意見が聞きたい。

○興味の無い子供にどうやって興味を持たせるか。少しでも頭に残る説明が大切。夢を持たせてあげたい。

○実施内容がてんこ盛り。消化しきれないのではないか。子供たちの評価を大切に、一人一人を育てていくことが大切。地域の大人たちが分担し、SNSで繋がって本音を引き出してはどうか。地域と学校が協力し、きめ細かい支援が必要。真庭はよく動いている。「地域の方が高校を巻き込んで」が当たり前の文化になれば良い。



(3) 第3回マイスター・ハイスクール運営委員会

ア 日時：令和5年2月20日（月）18:00～20:00

イ 会場：真庭市役所本庁舎 3階会議室

ウ 議事等

(ア) マイスター・ハイスクール事業進捗について

- ・令和4年度のまとめについて
- ・令和5年度以降の方向性について

(イ) 持続可能な体制の構築について

- ・第2回事業推進委員会で見えてきた課題について
- ・今後の体制

エ 議事概要（意見抜粋）

- 生徒の変容について、アンケート結果をしっかりと分析してもらいたい。特に入学当初の高いモチベーションが低下している点について分析し、改善を図り次年度に活かして欲しい。
- いろいろなモチベーションを高めることは難しいことだと思った。伸びるところを伸ばすのが一番だと思う。
- アンケート結果は私たちのした仕事の採点表。自己肯定感が落ちているということは、何らかの大きな問題があると思う。3年生では自己肯定感が上がっているのならば1年生のカリキュラムなども見直していかなければならない。
- ビジネス探究ツアーを実施して生徒の反応がとても良かったのにそれを維持できなかったのが残念。取り組みのつながりが生徒自身にちゃんと意識できていくことが大切。
- 地域に貢献したいという思いがある。授業外でも地域貢献活動ができる仕組みが欲しい。地域からは、生徒と地域の連携が学校の外でできる拠点が欲しいという意見がある。
- 総合的な探究の時間「真庭トライ&レポート」を今までの普通科が実施してきたものから専門科としての在り方に変えていかなければならないと思う。
- 校外で、しかも少人数のグループで学習する場合、引率者のことも考えると絶対に教員数が足りない。
- 学校の地域活動計画をどの段階までやるのが非常に重要。高校の計画や思いを地域にしっかり理解いただいて、その中で協力していただける体制を作っていく必要がある。どこまでが目指すところで、どこまでが学校でできることかをはっきりさせないと齟齬が出てくるので、その計画を立てる必要がある。

(4) 第1回マイスター・ハイスクール事業推進委員会

ア 日時：令和4年8月24日（水）19:00～21:00

イ 会場：真庭市役所本庁舎 3階会議室

ウ 議事等

(ア) マイスター・ハイスクール事業進捗について



(イ) 真庭市の教育魅力化アクションプランについて

エ 議事概要 (意見抜粋)

- ビジネス探究ツアー、初めてだと思うが子供たちの様子や成果、一方では課題を感じられたことなどが知りたい。
⇒全体を通して、その人の人生に触れるような構成で、心揺さぶられた子が多くいた。表情からは分からなかったが感想に表れていた。先生も手応えを感じていた。
- ビジョンはもちろん、今回示された真庭型産業人材育成プログラムやブラッシュアップされたポンチ絵が外から見えない。高校としてマイスター・ハイスクール事業をどうしていきたいのか知りたい。情報発信は大きい。今報告のあった内容だけでも発信素材として十分に値する。
- 真庭市の教育魅力化アクションプランは、庁内のプロジェクトチームで取り組んでいるもの。高校に直接関連するものから生涯学習を含めた教育全般に関わるもの。今後は真庭型産業人材育成プログラムとのリンクなども含め考えていきたい。
- 次回の会議は日中開催とし、生徒の様子も見てもらいたい。また、合同会議の内容を共有させてもらうので可能な範囲で参加をいただきたい。

(5) 第2回マイスター・ハイスクール事業推進委員会

- ア 日時：令和4年10月26日(水) 14:35~17:00
- イ 会場：真庭高校落合校地 3階会議室
- ウ 議事等

※授業見学 14:35~15:25

(ア) マイスター・ハイスクール事業進捗について

※中間成果報告会プレゼンをもとに協議

エ 議事概要 (意見抜粋)

- 育てたい人物像、ビジョンのねらい等のポイントを絞った方が良い。
- 真庭高校が、何を基本にどんなことをするのかきちんとしておく必要がある。具体を細かくしていく感でいい。
- 1年は体験・交流、では2、3年でマッチングや商品化はいつ?になってくる。見て感動したでは終わらないので次の展開が重要。
- 真庭トライ&レポートとの連携は真庭の姿。ただ、普通科として育ってきた真庭トライ&レポートと専門科として進めていく真庭トライ&レポートについては検討の余地がある。全職員の理解を含めて進めていく必要がある。



(6) 第3回マイスター・ハイスクール事業推進委員会

- ア 日時：令和5年2月14日(火) 18:00~20:00
- イ 会場：真庭市役所本庁舎 3階会議室

ウ 議事等

(ア) マイスター・ハイスクール事業進捗について

- ・令和4年度のまとめについて
- ・令和5年度以降の方向性について

(イ) 持続可能な体制の構築について

- ・真庭市から
- ・真庭高校及びCEOから

エ 議事概要（意見抜粋）

- 今回、真庭トライ&レポートの班に地域活動の企画段階から参加してもらい、企画から意見をもらったりこちらの課題を伝えて解決策を持ってきてもらった。良い機会であった。結果報告が聞けなかったのが残念。学校は、いろいろな行事があるので「時間がとりづらい」と感じた。時間があればもっとできることもある。時間の取り方が大きなハードルだった。
- 高校の先生方が感じている課題は何か。
⇒教員が足りない。マイスター・ハイスクールは農業と商業の学び。現場は通常業務に加えてやっている。思いと現実のせめぎ合い。費用の支援はいただいているのだが、企画・実働する人がいない。土日の活動は教員が引率。地域にお願いするということも考えられるが、安全面等から地域に責任を押しつけるわけにはいかない。
- 中高連携についてはビジョンにもあるが現実はまだまだ。真庭トライ&レポートの発表会を生徒が見に行くなど考えられる。オンラインよりも生で見ると良い。真庭高校の新学科がどのようなことをしているのかをもっと知らせたい。
- 来年度計画しているバイオマイスターについてアンケートを実施した。やってみようという回答が増えており、全体的に前に進んでいる感じがある。
- 聞き書きは農業と医療介護の2班で実施した。農業は新たな疑問が生まれ、違う方にも聞きに行った。今ある真庭トライ&レポートと科目を上手くつなげられたら新体制の総合的な探究の時間として見えてくると思う。しかし、現場の人手不足は強く感じている。現在はマンパワーでやっているが、誰がやってもできる仕組みにしていける必要も指摘されている。こういう中で、専門科が入ってきたのは転換期だと感じる。
- 「問を立てる力」「なぜ？の質問を出せる状況を作ること」が1番重要。新たな価値を生み出すには疑問がないと生まれない。
- 令和6年度の自走に向けて体制づくりを考えている。
⇒必要だから組織を作るのであって、委員会があつて良かったこと、悪かったことがあると思うが、悪かったことを改善するのがこの会議であり、皆で話し合っていけば良いと思う。

(7) 合同会議

ア 日時：令和4年6月29日（水）15:30～17:00

・近況報告

食農生産科（農場整備の進捗状況、地域住民との農業交流）

経営ビジネス科（地域連携への展開）

産業実務家教員（バイオマイスターの仕組みについて）

・各専門科からの相談

食農生産科（バスツアー見学先、まちかど展覧会、企業との連携）

経営ビジネス科（様々な業種業態の学びについて）

イ 日時：令和4年7月28日（木）15:30～18:00

・徳島県神山町視察報告

・真庭高校 真庭型産業人材育成プログラム説明

・ビジネス探究ツアー報告及び第2回ツアー案

・経営ビジネス科「ビジネス基礎」企業協力について

ウ 日時：令和4年8月29日（月）15:30～17:00

・第2回ビジネス探究ツアー内容の検討

・マイスター・ハイスクール事業関連報告

・ビジネス基礎授業報告

・食農生産科体験バスツアー（農業振興課連携）について

エ 日時：令和4年9月30日（金）15:30～17:00

・マイスター・ハイスクール関連報告

・情報共有及び各専門科より報告及び相談等

食農生産科から（10月以降の動き）

経営ビジネス科から（ビジネス基礎 出前講座の報告）

その他（情報発信の手法について）

その他（オープンイノベーション伴走型インターンシップについて）

オ 日時：令和4年10月31日（月）15:30～17:00

・情報共有及び各専門科より報告及び相談等

食農生産科から（11月以降の動き）

経営ビジネス科から（オープンイノベーション伴走型インターンシップ）

その他（2月に真庭観光局から講演、バイオマイスター授業）

・マイスター・ハイスクール関連報告及び協議

第2回事業推進委員会の報告及び課題整理

今後の会議体制の在り方について



(8) 中間成果発表会振り返り会議

ア 日時：令和4年11月24日(木) 9:00~11:30

イ 場所：真庭市役所本庁舎 2階相談室

ウ 参加者：中間成果発表会参加者並びに伴走者

エ 議事概要(意見抜粋)

○発表内容は分かりやすく仕組みがよく伝わったと思う。カリキュラムへの指摘はなかった。関係機関の協働体制は課題がある。

○真庭は、指定校15校のなかで自治体との結びつきが強い。

○他校の発表を聞いて、真庭との違いは①一企業が入り込んで伴走していない。②マイスター・ハイスクール事業そのものを周知させる。③成果を数値化している。の3点だと感じた。

○事業への取り組みによって教員負担が増加している。教員補助の導入や地域協力者との連携強化が必要だと感じる。

○新設学科の目指すものと、マイスター・ハイスクールの目指すものは同じだと感じた。生徒の変容をどう評価するかが課題。

○真庭高校の立ち位置(0から作ること)の難しさを感じた。

○継続性の問題として、組織的に伴走する必要がある。中間支援組織を計画中である。

○真庭は産業界が活発。先進と伝統のバイオマスもある。産業実務家教員と連携しているがマンパワーが不足。さらに教員負担が大きい。

○マイスター・ハイスクール事業の評価は高い。自治体が入り込んでいるのは真庭だけ。今後、生徒が主体であることを伝えることと教員の意識改革が必要。

○教育課程の刷新について知ることができた。新学習指導要領に基づいて進めることが基本であり、足らなければ学校設定教科・科目を検討するという流れは従前とおり。強いて学校設定教科・科目を設定するものではないことが分かった。

(9) 徳島県神山町(城西高校神山校)視察報告書

ア 出張先 徳島県神山町 徳島県立城西高等学校神山校

「まちの風景をつくる学校」出版記念3days 参加

イ 視察日 令和4年6月25日(土)~27日(月)

ウ 神山町での取組について



徳島県神山町は2015年に地方創生の戦略会議日本創成会議消滅可能性都市全国ランキング20位ということから、町内唯一の高校の廃校、公共交通の廃線、ケーブルテレビの撤退など、「成り行き未来」を描き、神山町の将来人口推計において2060年に3,000人を下回らないように維持しようとする取組を実施している。町の予算で、「神山つなぐ公社」という組織をつくり、富や資源が流出していない、安心な暮

らしがある、関係が豊かで開かれている好循環を目指して、すまいづくり、ひとづくり、しごとづくり、循環の仕組みづくり、安心な暮らしづくり、関係づくりの分野についてプロジェクトを実行している。

城西高校神山校では、2019年度より文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究指定を受け、「中山間地の地域内循環モデルの構築」をテーマとした研究開発に取り組んできた。神山校では2016年度以前ではオープンスクールに参加しての入学者は38%であったり、神山町在住の生徒が5人であったりと、真に望んでの入学が少なく、思っていたのと違うミスマッチが問題となっていた。しかし、様々な取組によって2022年度のオープンスクール参加後の入学者は60%（最大時は70%）、神山町在住（寮生を含む）は29名と大幅に増加した。寮の整備等によって、東京・大阪・沖縄等の県外からの入学者も増え、望んで入学する生徒が増えている。学科再編においては小学科制から類・コース制へと変更し、生徒の関係性が固定化することを防いだり、入学後の経験を通じて学習内容を選択できるようにしたりした。再編がただの看板の付け替えにならないために、町長名で神山校に期待することを学校に提出し、年3回のオープンスクールやコンソーシアムの開催などを行った。

○公社のプロジェクト

- ・学んだ造園技術を活かして、高齢者の困りごとを解決する「孫の手プロジェクト」（有償ボランティア）
- ・地域性種苗の種取「どんぐりプロジェクト」
- ・地域食材を使った商品の開発から加工・販売を行う「お弁当プロジェクト」
- ・地域の生産・交流拠点の創出、地域を学びの場とした実践として圃場の整備「まめのくぼ」プロジェクト
- ・企業だけでは作れない食育に関する学びの場の創出「フードハブプロジェクト」

○学校設定科目「神山創造学」

公社のメンバー4人が社会人講師として、まち全体をフィールドに社会の現状や課題を学ぶ授業を実施している。伝える力、協同する力、深める力を神山校で育む力として設定している。農業の科目として設定しているが、仕事体験やインターンシップの指導のために普通教科の担任も担当している。オープンスクールでも「神山創造学」の授業体験を実施している。



- ・1年生創造学 体験活動 地域をフィールドに学びのスタイルを体感する。
- ・2年生創造学 チームプロジェクト 地域や学校の課題にチームで取り組む。
コースプロジェクト 「まめのくぼ」を舞台に環境・食農を学ぶ。
- ・3年生課題研究 マイプロジェクト 3年間の集大成として自らテーマ設定し、実践する。

○寮「あゆハウス」

ここに来たい子たちを受け入れるために、自分たちで暮らしをつくる寮を創設した。様々な地域からの入学に伴い、バックグラウンドが異なる生徒が共同生活を行うため、毎日話し合いをする形式をとっている。大人のスタッフも栄養バランスなどをアドバイスするが、朝食・夕食は当番を決めて作るなど、多くは口出しをしない。運営は町からの委託費によって公社が行っている。



※今後の真庭高校に必要なものは何かを考えると、「対話」であると感じた。神山の方々が対話を繰り返してプロジェクトを進める姿、寮生も話し合いを大切にしている姿を目にし、自分たちには対話が不足していると感じた。新学科のカリキュラムマネジメント、寮、地域連携、広報、目指すビジョンなど様々な課題があるが、神山の例を参考にしつつ対話しながら解決する必要がある。

8 令和4年度地域との連携に関するアンケートの結果と分析

本事業に係る生徒の意識の変容と課題を探るため、年2回（年度当初4月及び12月）のアンケート調査を実施した。1回目は紙媒体で、2回目はGoogle formsで調査を行った。

地域との連携に関するアンケート【令和4年度】													←肯定的80%以上				←否定的30%以上			
学年	1年生				2年生				3年生											
学科	食農生産科		経営ビジネス科		生物生産科		食品科学科		生物生産科		食品科学科									
実施時期	4月	12月	4月	12月	4月	12月	4月	12月	4月	12月	4月	12月	4月	12月	4月	12月				
真庭市に魅力を感じる																				
とてもそう思う	25%	94%	19%	83%	10%	16%	77%	15%	13%	63%	16%	80%	20%	30%	83%	31%	21%	68%	17%	72%
そう思う	69%	64%	83%	74%	84%	61%	77%	60%	75%	50%	64%	80%	60%	80%	53%	44%	75%	47%	68%	56%
あまり思わない	6%	6%	14%	17%	13%	16%	23%	20%	25%	38%	16%	20%	16%	17%	17%	19%	25%	26%	32%	17%
全く思わない	0%	3%	3%	3%	10%	10%	5%	5%	0%	38%	4%	4%	20%	0%	17%	6%	5%	5%	32%	11%
高校生として地域に貢献したいと思う																				
とてもそう思う	44%	92%	19%	81%	48%	19%	71%	18%	38%	81%	16%	92%	8%	14%	76%	34%	6%	61%	22%	61%
そう思う	47%	61%	81%	39%	87%	52%	71%	53%	71%	44%	76%	92%	72%	80%	76%	34%	69%	56%	61%	39%
あまり思わない	8%	17%	17%	10%	13%	13%	29%	24%	29%	13%	8%	8%	16%	10%	28%	28%	31%	28%	39%	28%
全く思わない	0%	3%	3%	19%	13%	16%	6%	6%	29%	19%	0%	4%	20%	14%	24%	3%	11%	11%	39%	39%
学校の授業・行事で地域の方々と交流しながら活動をしたと思う																				
とてもそう思う	42%	97%	22%	81%	42%	16%	68%	19%	44%	75%	12%	92%	8%	25%	64%	44%	78%	11%	79%	28%
そう思う	56%	58%	81%	52%	94%	52%	67%	86%	44%	75%	80%	92%	80%	88%	39%	64%	34%	78%	68%	39%
あまり思わない	3%	3%	14%	19%	3%	6%	19%	14%	25%	25%	4%	8%	4%	12%	25%	16%	22%	21%	22%	33%
全く思わない	0%	6%	6%	19%	3%	6%	32%	0%	14%	0%	4%	8%	4%	12%	36%	6%	22%	0%	21%	11%
学校の授業・行事で地域の方々と交流しながら活動を行うことで達成感や満足感が得られていると思う																				
とてもそう思う	53%	100%	31%	86%	52%	23%	81%	29%	50%	94%	12%	84%	12%	21%	79%	50%	91%	11%	67%	50%
そう思う	47%	56%	35%	87%	35%	58%	71%	100%	44%	94%	72%	84%	76%	88%	57%	79%	41%	91%	56%	28%
あまり思わない	0%	0%	8%	14%	0%	13%	19%	0%	6%	6%	16%	16%	8%	12%	18%	21%	3%	9%	33%	11%
全く思わない	0%	6%	6%	14%	13%	10%	10%	0%	0%	0%	0%	16%	4%	12%	21%	6%	0%	0%	33%	22%
人と話したり関わったりするのが得意だと思う																				
とてもそう思う	11%	53%	8%	42%	19%	10%	42%	10%	13%	38%	4%	48%	12%	56%	14%	46%	41%	56%	5%	47%
そう思う	42%	33%	33%	23%	42%	32%	45%	55%	25%	38%	44%	48%	44%	52%	32%	46%	22%	42%	47%	39%
あまり思わない	42%	42%	42%	48%	23%	32%	35%	50%	50%	36%	28%	28%	36%	36%	22%	22%	44%	47%	53%	17%
全く思わない	6%	47%	17%	58%	10%	58%	10%	45%	13%	63%	16%	52%	16%	18%	54%	22%	44%	5%	53%	39%
高校卒業後、いずれは地元で働きたいと思う																				
とてもそう思う	25%	72%	6%	53%	13%	71%	19%	61%	14%	44%	8%	64%	8%	25%	71%	31%	66%	11%	68%	28%
そう思う	47%	47%	47%	53%	42%	43%	57%	44%	57%	44%	56%	64%	48%	56%	46%	34%	34%	58%	68%	56%
あまり思わない	22%	28%	28%	47%	26%	29%	26%	33%	6%	13%	24%	36%	28%	14%	29%	31%	34%	21%	32%	11%
全く思わない	6%	19%	19%	47%	3%	29%	13%	39%	43%	6%	12%	36%	16%	14%	29%	3%	34%	11%	32%	17%
高校卒業後も学んだことを活かして地域の直面している課題を解決することに役立ちたいと思う																				
とてもそう思う	28%	94%	6%	81%	35%	16%	68%	25%	31%	69%	12%	84%	4%	21%	72%	38%	66%	5%	58%	17%
そう思う	67%	75%	75%	61%	97%	52%	68%	70%	38%	69%	72%	84%	56%	60%	52%	72%	28%	66%	53%	39%
あまり思わない	6%	6%	11%	19%	0%	3%	23%	30%	19%	31%	16%	16%	32%	28%	28%	34%	34%	37%	42%	28%
全く思わない	0%	8%	8%	19%	3%	10%	10%	13%	13%	0%	0%	8%	8%	0%	0%	0%	0%	5%	17%	44%
地元を誇りに持っている																				
とてもそう思う	19%	89%	14%	92%	19%	87%	19%	77%	25%	38%	12%	88%	12%	76%	24%	28%	78%	16%	63%	28%
そう思う	69%	78%	78%	68%	87%	58%	77%	45%	70%	38%	75%	88%	64%	76%	52%	76%	50%	47%	47%	50%
あまり思わない	11%	11%	3%	8%	10%	13%	23%	25%	30%	19%	12%	12%	20%	17%	24%	19%	22%	37%	37%	11%
全く思わない	0%	0%	6%	3%	13%	10%	10%	5%	6%	6%	0%	4%	4%	7%	3%	3%	0%	0%	37%	11%
自分には良いところがあると肯定的に思う																				
とてもそう思う	36%	89%	8%	67%	26%	77%	16%	48%	24%	19%	12%	68%	0%	44%	23%	81%	34%	69%	24%	28%
そう思う	53%	58%	58%	52%	32%	52%	76%	63%	76%	63%	56%	68%	44%	58%	81%	34%	69%	47%	71%	50%
あまり思わない	11%	11%	25%	33%	16%	23%	23%	24%	24%	13%	28%	32%	36%	15%	19%	22%	31%	29%	29%	11%
全く思わない	0%	8%	8%	33%	16%	23%	24%	0%	24%	19%	4%	20%	56%	4%	19%	9%	31%	0%	29%	22%
今年度、学校の授業以外で地域貢献や交流の活動に取り組んだ																				
取り組んだ			56%			48%			56%				36%			69%				44%
取り組んでいない			44%			52%			44%				64%			31%				56%
授業・行事での体験や地域の方々のお話から得た知識・発想を活かして、新しい取組に挑戦したい																				
とてもそう思う			11%			10%			25%				12%			38%				22%
そう思う			75%			65%			50%				64%			28%				33%
あまり思わない			8%			16%			25%				20%			28%				33%
全く思わない			6%			10%			0%				4%			6%				11%
高校卒業後の自分の生き方や働き方を考えることができる																				
よく考える			17%			16%			31%				32%			53%				22%
たまに考える			69%			58%			50%				56%			41%				56%
あまり考えない			6%			16%			19%				8%			6%				17%
全く考えない			8%			10%			0%				4%			0%				6%

<アンケート考察>

- 1年生4月実施のアンケートは全体的に肯定的回答が多く見られる。入学当初の意欲の表れとも取れるが、この高い意欲を維持する学習展開を行う工夫が必要である。そのためには、生徒の期待に応えられなかったものが何かをあぶりだし、改善していく必要がある。
- 「真庭市に魅力を感じる」の設問では、魅力を感じている生徒が多いが、最上位群は少なく、ほとんどの集団でマイナスとなっており、生徒目線の魅力が必要である。また、単に真庭市としての魅力と捉えるだけでなく、生徒が主体的に地域と交流できる拠点や居場所を作ることができれば、真庭市の新たな魅力となり得る可能性がある。
- 「高校生として地域に貢献したいと思う」「学校の授業・行事で地域の方々と交流しながら活動したいと思う」の設問では、1・2年生の意欲が高い。地域貢献活動の喜びや達成感・満足感を実感させれば意欲の高まりが期待できる。3年生の数値はマイナス傾向にあり、コロナ禍で1・2年次に地域連携活動ができなかったことが影響していると推察する。
- 「学校の授業・行事で地域の方と交流しながら活動を行うことで達成感や満足感が得られていると思う」の設問では、増減があるものの肯定的回答が多く見られる。地域と交流することで達成感や満足感を感じていると捉えることができる。しかし、否定的回答は、経営ビジネス科に多く、生徒の意欲に見合うだけの場が十分でなかったとも考えられる。「交流できている」とはどういうことかを考え、授業や行事のありかたをもう一度見つめ直す必要がある。また、活動の意欲付けや価値付けも必要である。
- 「人と話したり関わったりするのが得意だと思う」の項目は、全体的に肯定的数値が低く、一部を除き否定的数値とほぼ同じ状況であり、生徒の半数がコミュニケーションに苦手意識を持っている。コミュニケーション能力の育成は、コミュニケーションすることでしか身につかないと言われており、学校全体の課題と捉え、教育活動全般について意図的にコミュニケーションの場を増やすことが必要と考えられる。
- 「高校卒業後、いずれは地元で働きたいと思う」の設問では、一部を除き肯定的数値が低い。この数値を悪いと捉える必要はないと考える。ただし、「真庭市に魅力を感じる」「地元を誇りに持っている」の肯定的数値の高さと比較するとギャップが見られる。キャリア教育を通じて地域産業・企業の良さを知るとともに、高校生が自分の生き方を見つけられるようにすることが重要である。本事業で実施している個人別ポートフォリオを活用したキャリアパスポート作成を充実させ、進路意識の向上と勤労観の育成を進める必要がある。
- 「高校卒業後も学んだことを活かして地域の直面している課題を解決することに役立ちたいと思う」の設問では、1年生の肯定的数値が高い。「高校生として地域に貢献したいと思う」の数値に呼応して、地域の役に立ちたいと考えている生徒が非常に

多い。

- 「自分には良いところがあると肯定的に思う」の設問では、一部を除き肯定的数値が下がっている。地域に貢献したいとの思いを持ちながら、なぜ大きく自己肯定感が下がっているのかを検討した。自己肯定感の向上につながると思われる活動に多く取り組んできたにも関わらず大きく自己肯定感が下がっている理由を生徒の意識調査を元に「自主自発の地域貢献活動の不足」「地域との連携はあったが交流となっていなかった。」「コミュニケーション力の不足」と分析し、改善を図ることとした。「学校の授業・行事で地域の方と交流しながら活動を行うことで達成感や満足感が得られていると思う」の肯定的数値を考え合わせ、地域貢献・交流活動で自信をつけさせ自己肯定感を伸ばしたい。さらに、自発的な地域貢献活動を可能にする仕組みを考えたり、授業や行事に関わる人や地域との交流の質を高める工夫をしたりすることが重要である。
- 「今年度、学校の授業以外で地域貢献や交流の活動に取り組んだ」の設問では、約半数が取り組んだと回答している。地元行事等への参加があると思われる。さらに各自で取り組むためには、地域貢献情報バンク等を設定し、地域からの情報を生徒に提供するような仕組み作りが必要と思われる。他校の実践事例も参考にして検討したい。
- 「授業・行事での体験や地域の方々のお話から得た知識・発想を活かして、新しい取組に挑戦したい」の設問では、1・2年生の肯定的数値が高い。特に食農生産科1年生が高い。今後、生徒一人一人の願いに応える支援を地域と連携して行うことが重要である。そのためにも持続可能な推進体制の構築が必要となる。
- 「高校卒業後の自分の生き方や働き方を考えることがある」の設問では、約80%の生徒が肯定的回答をしているが、上級学年ほど「よく考える」の数値が高い傾向にある。進路意識の向上によるものと捉えられるが、地域との連携による経験値を上げ、3年間をとおしたキャリア教育を推進する必要がある。

9 令和4年度の課題と次年度へ向けて

令和5年度は、事業指定最終年度である。新学科の生徒も2学年となり、専門教科の学びについて、さらに地域と結びついた内容を充実させていく計画である。あわせて自走を前提とした推進体制を構築する。令和4年度 of 取組から課題点をあげ、令和5年度の方向を示す。

1 カリキュラムに関する課題と方向性

- 本事業により農・商それぞれのカリキュラム充実に取り組んできたが、本カリキュラムの重要ポイントである「農・商のコラボレーション」までは描けていない。思い切った特色づくりを念頭に置き、令和5年度はこの具体的な内容と実施科目、地域連携先を確定する。
- アンケート結果の分析から、入学時の自己肯定感等が大変高い数値であったものが維持できず大きく下がっている。生徒の意見を汲み取り、それを反映させた学習内容構成を検討する必要がある。さらに、地域での活動をその後の学習活動に結び付けな

から学習意欲や課題解決能力を育成し、自己肯定感を向上させる方法を検討・実施する。

- カリキュラムの背骨として、真庭高校の伝統である「TR」（真庭トライ&レポート＝総合的な探究の時間）を位置づけてきたが、普通科高校の中で作り上げられてきたシステムではなく、専門科ならではのシステムとして再構築する必要性が見えてきた。令和5年度はこれまで実施してきたTRを教科との関連性や地域との関係性を踏まえ見直すとともに、2年生以降の専門科目に結びつけることを検討し、令和6年度から実施する。

2 自走に向けた課題と方向性

- 校内内部の推進体制について、これまでマイスター・ハイスクール事業に該当する2学科に傾注した体制で取り組んできた結果、学校全体で生徒を育てるという理念に至れていなかった。特に教員数について、新学科完成年度である令和6年度までは専門科の教員数不足が明らかとなっており、令和5年度はコミュニティスクール化を含む全校的な校内推進体制を構築する。
- 管理機関を含む地域との連携については、これまでカリキュラム構築のための限定的な範囲にとどまっていた。令和4年度末に令和5年度以降の新・教育課程表のベースが出来上がったことから、令和5年度はいよいよ自走化を前提とした組織化に取り組む。自走化前提の組織化については校内推進体制とも連携を図っていく。
- 将来の真庭市を担う人材育成を進めるなかで小中学校と連携していく。この連携を進める中で、高校生にとっても自己有用感や達成感の醸成に繋ぐことができる。地域連携という点からみると、特に高校入学前である中学生や小学生との連携が、スケジュール面等からうまく進んでいない。令和5年度は市内高校間の横連携と合わせ、市内小中学校(校長)との関係性構築に努め、小中学校の意見やニーズを聞きながら、一層の地域連携に努める。
- 令和6年度からの自走は地域関係者の共創が大前提である。特に大きな課題となるのが「財源」と「外部人材の効果的な起用」であるが、これについて令和5年度は新・教育課程表を管理機関等と精査していく中で、相互のWin-Winの関係を描きながら、ヒト・モノ・カネあらゆる事項について継続支援のあり方を検討し、令和6年度以降の真庭市に立地する県立高校と地域をつなげる推進基盤を確立させる。

10 終わりに

令和5年度は、本事業の最終年度である。この事業もすでに2年が経過しているが、本校新学科が設置された令和4年度は、改めてスタートを切り直したイメージがある。しかし、この2年間に蓄積した連携の手法や多くの課題は、本校だけでなく、学校と地域との連携モデルとして広く活用していただくことのできるものと考ええる。

最終年度は、課題は山積しているものの、これまで培ってきた関係機関との連携体制を軸に、自然と共生し、持続可能な地域と地域産業を担う人材の育成を進めていきたい。



岡山県立真庭高等学校

〒719-3144

岡山県真庭市落合垂水448-1

TEL (0867)52-0056

FAX (0867)52-0936

<http://www.maniwa.okayama-c.ed.jp/>

